

# HP QuickTest Professional

ソフトウェア・バージョン : 11.00

---

## インストール・ガイド

ドキュメント・リリース日 : 2010 年 10 月 (英語版)

ソフトウェア・リリース日 : 2010 年 10 月 (英語版)



## ご注意

### 保証

HP 製品，またはサービスの保証は，当該製品，およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的，編集上の誤り，または欠如について，HP はいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は，予告なしに変更されることがあります。

### 権利の制限

機密性のあるコンピュータ・ソフトウェアです。これらを所有，使用，または複製するには，HP からの有効な使用許諾が必要です。商用コンピュータ・ソフトウェア，コンピュータ・ソフトウェアに関する文書類，および商用アイテムの技術データは，FAR12.211 および 12.212 の規定に従い，ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

### 著作権について

© 1992 - 2010 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

### 商標

Adobe® および Acrobat® は，Adobe Systems Incorporated の商標です。

Inte®，Pentium® および Intel® Xeon™ は，米国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

Java™ は，Sun Microsystems, Inc. の米国商標です。

Microsoft®，Windows®，Windows NT® および Windows® XP は，Microsoft Corporation の米国登録商標です。

Oracle® は，カリフォルニア州レッドウッド市の Oracle Corporation の米国登録商標です。

Unix® は，The Open Group の登録商標です。

SlickEdit® は，SlickEdit Inc. の登録商標です。

## 文書の更新

このガイドの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアのバージョン番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメント・リリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェア・リリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

最新の更新のチェック、またはご使用のドキュメントが最新版かどうかのご確認には、次のサイトをご利用ください。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passport への登録とサインインが必要です。HP Passport ID の取得登録は、次の Web サイトから行なうことができます。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>（英語サイト）

または、HP Passport のログイン・ページの **[New users - please register]** リンクをクリックします。

適切な製品サポート・サービスをお申し込みいただいたお客様は、最新版をご入手いただけます。詳細は、HP の営業担当にお問い合わせください

## サポート

次の HP ソフトウェア・サポート Web サイトを参照してください。

<http://support.openview.hp.com>

HP ソフトウェアが提供する製品、サービス、サポートに関する詳細情報をご覧ください。

HP ソフトウェア・サポート・オンラインでは、セルフ・ソルブ機能を提供しています。お客様の業務の管理に必要な対話型の技術支援ツールに素早く効率的にアクセスいただけます。HP ソフトウェア・サポート Web サイトのサポート範囲は次のとおりです。

- 関心のある技術情報の検索
- サポート・ケースとエンハンスメント要求の登録とトラッキング
- ソフトウェア・パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェア・カスタマとの意見交換
- ソフトウェア・トレーニングの検索と登録

一部を除き、サポートのご利用には、HP Passport ユーザーとしてご登録の上、ログインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport ID を登録するには、以下の Web サイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>（英語サイト）

アクセス・レベルに関する詳細は、以下の Web サイトを参照してください。

[http://support.openview.hp.com/access\\_level.jsp](http://support.openview.hp.com/access_level.jsp)

---

# Table of Contents

<b>HP QuickTest Professional</b>	
はじめに.....	7
HP QuickTest Professional インストール・ガイドの概要.....	7
文書ライブラリ目次.....	8
その他のオンライン・リソース.....	11
<b>第1章: インストールの前に.....</b>	<b>13</b>
必要なアクセス権限の設定.....	14
以前のバージョンの QuickTest からアップグレードする場合の留意点.....	15
<b>第2章: QuickTest Professional のセットアップ.....</b>	<b>17</b>
QuickTest Professional のライセンスの種類ごとのセットアップについて.....	18
QuickTest Professional のインストールに関する留意点.....	21
QuickTest Professional のインストール.....	22
インストールの追加要件ユーティリティの使用.....	35
[ QuickTest Professional セットアップ ] ウィンドウのオプション.....	45
QuickTest Professional プログラム・フォルダの参照.....	47
サイレント・インストールの設定.....	48
QuickTest Professional ユーザ・インタフェース・バック のインストール.....	59
QuickTest のインストールに関するトラブルシューティングと制限事項.....	61
<b>第3章: QuickTest Professional ライセンスの使用方法.....</b>	<b>63</b>
QuickTest のライセンスの種類について.....	64
シート・ライセンス・キーの申請.....	65
シート・ライセンス・キーのインストール.....	68
コンカレント・ライセンスの使用.....	75
ライセンス情報の変更.....	80
コンピュータ・ライセンスの使用.....	82
QuickTest ライセンスの検証.....	95
コンカレント・ライセンスに関する問題のトラブルシューティング.....	100

<b>第4章: QuickTest Professional の保守とアンインストール</b> .....	<b>107</b>
QuickTest Professional の特定機能のインストールとアンインストール .....	108
QuickTest Professional のインストールの修復.....	110
QuickTest Professional のアンインストール.....	111
QuickTest の設定の保存と復元 .....	113
QuickTest のアンインストールに関するトラブルシューティングと 制限事項 .....	117

---

# HP QuickTest Professional

## はじめに

本章では、次の項目について説明します。

- ▶ 「HP QuickTest Professional インストール・ガイドの概要」(7 ページ)
- ▶ 「文書ライブラリ目次」(8 ページ)
- ▶ 「その他のオンライン・リソース」(11 ページ)

## HP QuickTest Professional インストール・ガイドの概要

『HP QuickTest Professional インストール・ガイド』へようこそ。

本書では、スタンドアロンのコンピュータへの QuickTest Professional のインストールとセットアップの方法について説明します。

### 対象読者

本書は、QuickTest Professional のインストールおよびセットアップを行う必要があるユーザを対象としています。

本書の読者は、システム管理についてある程度の知識を持っている必要があります。

## 文書ライブラリ目次

本書は QuickTest Professional 文書ライブラリの中に収められています。文書ライブラリから、QuickTest Professional に関するすべてのドキュメントにアクセスできます。

文書ライブラリには、次のいずれかの方法でアクセスできます。

- ▶ [ヘルプ] > [QuickTest Professional ヘルプ] を選択します。
- ▶ [スタート] メニューで、[プログラム] > [HP QuickTest Professional] > [Documentation] > [HP QuickTest Professional Help] を選択します。
- ▶ 選択した QuickTest ウィンドウおよびダイアログ・ボックスをクリックするか、F1 キーを押します。
- ▶ QuickTest テスト・オブジェクト、メソッド、またはプロパティの上にカーソルを置いて F1 キーを押すことで、それらの説明、構文、および例を参照します。

文書ライブラリには、次のドキュメントが含まれています。

タイプ	含まれているドキュメント
入門ドキュメント	<ul style="list-style-type: none"><li>▶ 「<b>最初にお読みください</b>」では、QuickTest に関する最新ニュースと最新情報を入手できます。[スタート] &gt; [プログラム] &gt; [HP QuickTest Professional] &gt; [Readme] を選択してください。</li><li>▶ 『<b>HP QuickTest Professional インストール・ガイド</b>』では、QuickTest のインストールおよびセット・アップ方法を説明します。[ヘルプ] &gt; [QuickTest Professional ヘルプ] を選択し、<b>文書ライブラリのホーム</b> ページでインストール・ガイドへのリンクをクリックします。</li><li>▶ 『<b>HP QuickTest Professional チュートリアル</b>』では QuickTest の基本スキルを学びアプリケーションを対象とするテストを設計する方法を説明します。[ヘルプ] &gt; [QuickTest Professional チュートリアル] を選択してください。</li><li>▶ 『<b>製品の機能紹介ムービー</b>』では、QuickTest の選択した機能の使用方法について、概要および手順ごとに説明します。[ヘルプ] &gt; [製品の機能紹介ムービー] を選択してください。</li><li>▶ 『<b>新機能</b>』では、現在のバージョンの QuickTest の新機能、強化された点、サポートされている環境について説明します。[ヘルプ] &gt; [新情報] を選択してください。</li></ul>



タイプ	含まれているドキュメント
機能に関するドキュメント	<p>『QuickTest Professional ヘルプ』には、次のドキュメントがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ ホーム ] に、文書ライブラリ の各形式 ( ヘルプ , PDF , HTML ) のガイドへのリンクがあります。</li> <li>▶ 「 QuickTest Professional 新機能 」 では、最新バージョンの QuickTest でサポートされている環境、新機能および強化された点について説明します。</li> <li>▶ 『 HP QuickTest Professional ユーザーズ・ガイド 』 では、QuickTest を使用してアプリケーションをテストする方法を説明します。</li> <li>▶ 『 HP QuickTest Professional for Business Process Testing ユーザーズ・ガイド 』 では、QuickTest を使用して、Business Process Testing を使用する資産の作成および管理を行う方法を手順ごとに説明します。</li> <li>▶ 『 HP QuickTest Professional アドイン・ガイド 』 では、サポート対象の環境で QuickTest アドインを使って作業する方法について説明し、環境に固有の情報をアドインごとに示しています。</li> <li>▶ 『 HP QuickTest Professional Object Model Reference 』 では、QuickTest テスト・オブジェクトの説明、各オブジェクトに関連したメソッドおよびプロパティの一覧、メソッドおよびプロパティの構文情報と使用例を示します。</li> </ul>

タイプ	含まれているドキュメント
リファレンス・ドキュメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 『HP QuickTest Professional Advanced References』には、次の QuickTest COM および XML リファレンスに関するドキュメントが含まれています。</li> <li>▶ 『HP QuickTest Professional Automation Object Model』では、オートメーション・オブジェクト、メソッドとプロパティの構文情報、詳細な情報、および例を入手できます。また、QuickTest のオートメーション・スクリプトを記述する際の詳しい概要も含まれます。オートメーション・オブジェクト・モデルは、QuickTest のほぼすべての機能を制御することを可能にするオブジェクト、メソッド、プロパティを提供することによって、テスト管理の自動化を支援します。</li> <li>▶ 『HP QuickTest Professional Run Results Schema』では、実行結果のカスタマイズに必要な情報を提供する、実行結果の XML スキーマについて説明します。</li> <li>▶ 『HP QuickTest Professional Test Object Schema』では、各種環境でテスト・オブジェクトのサポートを拡張するのに必要な情報を提供する、テスト・オブジェクトの XML スキーマについて説明しています。</li> <li>▶ 『HP QuickTest Professional Object Repository Schema』では、XML にエクスポートされたオブジェクト・リポジトリ・ファイルを編集するのに必要な情報を提供する、オブジェクト・リポジトリの XML スキーマについて説明しています。</li> <li>▶ 『HP QuickTest Professional Object Repository Automation』では、QuickTest の外部から QuickTest のオブジェクト・リポジトリやその内容を操作するのに必要な情報を提供する、オブジェクト・リポジトリ・オートメーション・オブジェクト・モデルについて説明します。</li> <li>▶ 『VBScript Reference』には、VBScript、Script Runtime、および Windows Script Host を含む Microsoft VBScript のドキュメントが含まれています。</li> </ul>

## その他のオンライン・リソース

**サンプル・アプリケーション。** 次のサンプル・アプリケーションが本書で説明する多くの例の基礎となります。

▶ **Mercury Tours サンプル Web サイト** : この Web サイトの URL は [newtours.demoaut.com](http://newtours.demoaut.com) です。

▶ **Mercury Flight アプリケーション** : [ スタート ] メニューからアクセスするには、[ **プログラム** ] > [ **HP QuickTest Professional** ] > [ **Sample Applications** ] > [ **Flight** ] を選択します。

[ **トラブルシューティング & ナレッジ ベース** ] から、セルフ・ソルブ技術情報を検索できる HP ソフトウェア・サポート Web サイトのトラブルシューティング・ページにアクセスできます。[ **ヘルプ** ] > [ **トラブルシューティング & ナレッジ ベース** ] を選択します。この Web サイトの URL は <http://support.openview.hp.com/troubleshooting.jsp> です。

**HP ソフトウェア・サポート** : HP ソフトウェアのサポート Web サイトにアクセスします。このサイトでは、セルフ・ソルブ技術情報を閲覧できます。また、ユーザ・ディスカッション・フォーラムへの投稿や検索、サポート依頼の送信、パッチや更新されたドキュメントのダウンロードなども行えます。[ **ヘルプ** ] > [ **HP ソフトウェアサポート** ] を選択します。この Web サイトの URL は、<http://support.openview.hp.com> です。

ほとんどのサポート・ページでは、HP Passport ユーザとして登録してログインすることを求められます。また、多くはサポート契約が必要です。

アクセス・レベルの詳細については、

[http://support.openview.hp.com/access\\_level.jsp](http://support.openview.hp.com/access_level.jsp)

HP Passport ユーザ ID の登録は、次の場所で行います。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> ( 英語サイト )

**HP ソフトウェア Web サイト** から、HP ソフトウェア Web サイトにアクセスします。このサイトでは、HP ソフトウェア製品に関する最新情報を提供します。新しいソフトウェアのリリース、セミナー、展示会、カスタマー・サポートなどの情報も含まれています。[ **ヘルプ** ] > [ **HP ソフトウェア Web サイト** ] を選択します。この Web サイトの URL は、<http://support.openview.hp.com> です。



# 第1章

---

## インストールの前に

機能テストと回帰テストを自動化する高度なキーワード駆動テスト・ソリューション、HP QuickTest Professional へようこそ。QuickTest Professional は、HP Quality Center の一部です。本書では、QuickTest Professional をスタンドアロン・コンピュータへインストールするために必要なすべての項目について説明します。

---

**注：**特に指定がない限り、本書に記載された **Quality Center** は、現在サポートされているバージョンの Quality Center および HP ALM を示します。一部の機能およびオプションは、使用している Quality Center または HP ALM のエディションではサポートされない可能性があります。

Quality Center または HP ALM のサポート対象バージョンの一覧は、『HP QuickTest Professional 使用可能製品マトリクス』（ドキュメント・ライブラリ・ホームページまたは QuickTest Professional DVD のルートフォルダ）を参照してください。

Quality Center または HP ALM の各エディションの詳細については、『HP Quality Center ユーザー・ガイド』または『HP Application Lifecycle Management ユーザー・ガイド』を参照してください。

---

QuickTest Professional をインストールする前に、お使いのコンピュータがすべてのシステム要件に適合していることを確認してください。

詳細については、『HP QuickTest Professional 最初にお読みください』を参照してください。サポートされているシステム構成の最新の一覧については、[www.hp.com/go/QTP\\_SysReq](http://www.hp.com/go/QTP_SysReq) を参照してください。

QuickTest Professional 11.00 へは、QuickTest バージョン 9.5 からのみアップグレードできません。QuickTest 9.5 より前のバージョンをお使いの場合は、まず現在お使いの QuickTest バージョンと ALM/QC の QuickTest アドインを手動でアンインストールする必要があります。詳細については、「以前のバージョンの QuickTest からアップグレードする場合の留意点」(15 ページ)を参照してください。

QuickTest Professional のインストール実行中は、ほかのインストールを実行できません。また、QuickTest をインストールする前に、お使いのコンピュータが再起動を必要とする状態ではないことをご確認ください。コンピュータが再起動を必要とする状態にある場合、インストールは実行されません。

### 本章の内容

- ▶ 必要なアクセス権限の設定 (14 ページ)
- ▶ 以前のバージョンの QuickTest からアップグレードする場合の留意点 (15 ページ)

## 必要なアクセス権限の設定

QuickTest Professional のインストールと実行には、次のアクセス権限の設定が必要です。

### QuickTest Professional のインストールに必要な権限

QuickTest をインストールするコンピュータの管理者権限が必要です。QuickTest のアンインストール、インストールの修復と変更、パッチのインストールなど、ほかのインストール作業にも管理者権限が必要です。

場合によっては、インストールの際にシステムの再起動が必要になることがあります。コンピュータの再起動が必要な場合は、再起動後のインストール処理にも管理者権限が必要です。

## QuickTest Professional の実行に必要な権限

ファイル・システムに対する次のアクセス権限が必要です。

- ▶ QuickTest のインストール先フォルダにあるすべてのファイルとフォルダの完全な読み取りおよび書き込みの許可。
- ▶ Temp フォルダの完全な読み取りおよび書き込みの許可。
- ▶ Windows フォルダおよび System フォルダの読み取り許可。

レジストリ・キーに対する次の権限が必要です。

- ▶ HKEY\_CURRENT\_USER\Software\Mercury Interactive 以下のすべてのキーの完全な読み取りおよび書き込みの許可。
- ▶ HKEY\_LOCAL\_MACHINE と HKEY\_CLASSES\_ROOT のすべてのキーに対する読み取りおよび値照会の許可。

## Quality Center の使用に必要な許可

QuickTest と Quality Center を使用するには、次の許可が必要です。

- ▶ Quality Center キャッシュ・フォルダの完全な読み取りおよび書き込みの許可。
- ▶ ALM/QC 用 QuickTest アドインのインストール先フォルダに対する読み取りおよび書き込みの許可。

## 以前のバージョンの QuickTest からアップグレードする場合の留意点

- ▶ QuickTest Professional 11.00 へは、QuickTest バージョン 9.5 からのみアップグレードできます。QuickTest バージョン 9.5 は自動的にアンインストールされます。
- ▶ QuickTest 9.5 より前のバージョンから QuickTest Professional 11.00 にアップグレードする場合は、まず現在お使いの QuickTest バージョンと ALM/QC 用 QuickTest アドインを手動でアンインストールする必要があります。アンインストールを行わないと、インストール処理が始まりません。アンインストール処理の最後に、コンピュータを再起動します。この後、新しいバージョンとアドインをインストールします。

---

**注：**設定の保存と復元ユーティリティを使用して、古いバージョンの QuickTest をアンインストールする前に既存のカスタマイズ設定やレジストリ・キーを保存しておき、新しいバージョンをインストールした後にそれらを復元できます。詳細については、「QuickTest の設定の保存と復元」(113 ページ)を参照してください。

---

- ▶ QuickTest Professional は、コンカレント・ライセンス・サーバとして、Sentinel RMS License Manager バージョン 8.3.0 をサポートしています。コンカレント・ライセンスを持つ QuickTest Professional をアップグレードする場合、コンカレント・ライセンス・サーバもアップグレードする必要があります。コンカレント・ライセンス・サーバへの接続に関する詳細については、『HP Functional Testing Concurrent License Server インストール・ガイド』を参照してください。
- ▶ QuickTest Professional バージョン 9.5 以降からアップグレードする場合、ライセンス・データは保持されます。ただし、アップグレード前にライセンスをインストールしていない場合は、インストール中に QuickTest Professional ライセンス・ウィザードを実行する必要があります。詳細については、手順 11 (30 ページ)を参照してください。
- ▶ バージョン 9.5 でインストールしたすべてのアドインは、アップグレード中に識別され、標準設定でインストールの機能選択ページでチェックされます。インストール中にアドインの追加と削除を行えます。
- ▶ QuickTest のメイン・ユーザ・インタフェースのレイアウト (各種表示枠のサイズや位置など) は、維持されます。
- ▶ [ ツール ] > [ オプション ] で定義されたすべての設定は保持されます。
- ▶ アップグレード前に QuickTest で最近開いたテストは、[ ファイル ] メニューに表示されます。
- ▶ Quality Center への接続設定はアップグレード処理では保持されません。必要に応じて、インストール後に Quality Center に再接続してください。ALM/QC アドインの最新バージョンをインストールするには、最新バージョンをインストールする前にアドインの以前のバージョンを手動でアンインストールする必要があります。



# 第2章

---

## QuickTest Professional のセットアップ

QuickTest Professional をインストールする場合は、使用する機能とアドインについて知っておく必要があります。インストール処理で QuickTest および Web、Visual Basic、ActiveX アドインが自動的にインストールされます。また、インストールする追加機能とアドインを選択できます。アドインの詳細については、『HP QuickTest Professional アドイン・ガイド』を参照してください。

インストールするライセンスの種類についても知っておく必要があります。シート・ライセンスは、インストールしたコンピュータにおいてのみ有効な無期限のライセンスです。コンカレント・ライセンスは、HP Functional Testing Concurrent License Server を持っている場合のみ使用可能なセッションごとのライセンスです。詳細については、「QuickTest Professional のライセンスの種類ごとのセットアップについて」(18ページ)を参照してください。

QuickTest Professional のライセンスを使用すると、すべての QuickTest アドインの使用を含むすべての QuickTest の機能を使用できます。QuickTest Professional とともに、リリースされているすべての QuickTest アドインの最新バージョンを使用できます。旧バージョンからアップグレードする場合は、以前にライセンスを取得していたアドインのみを使用できます。

サイレント・インストール(バックグラウンドでのインストール)をリモート・コンピュータで行うように QuickTest をセットアップすることもできます。

---

**注:** QuickTest Professional を開くと、アプリケーションに対する更新のサイレント・チェックがバックグラウンドで実行されます。すべての HP 製品の更新が提供されているかどうか、いつでもオンラインで確認できます。確認するには、[ **スタート** ] > [ **プログラム** ] > [ **QuickTest Professional** ] > [ **HP Update** ] を選択します。確認後、ダウンロードしてインストール(任意)する更新を選択できます。

---

### 本章の内容

- ▶ QuickTest Professional のライセンスの種類ごとのセットアップについて (18 ページ)
- ▶ QuickTest Professional のインストールに関する留意点 (21 ページ)
- ▶ QuickTest Professional のインストール (22 ページ)
- ▶ インストールの追加要件ユーティリティの使用 (35 ページ)
- ▶ [ QuickTest Professional セットアップ ] ウィンドウのオプション (45 ページ)
- ▶ QuickTest Professional プログラム・フォルダの参照 (47 ページ)
- ▶ サイレント・インストールの設定 (48 ページ)
- ▶ QuickTest Professional ユーザ・インタフェース・パック のインストール (59 ページ)
- ▶ QuickTest のインストールに関するトラブルシューティングと制限事項 (61 ページ)

## QuickTest Professional のライセンスの種類ごとのセットアップについて

QuickTest Professional のインストール，およびライセンスを有効化する基本的な手順は，ライセンスの種類（シートおよびコンカレント）によって異なります。本項では，それぞれの種類のライセンスに必要なセットアップ手順の概要と，各手順に対する詳細な情報を示します。

### シート・ライセンスを使った QuickTest Professional のセットアップ

本項では，シート・ライセンスを使った QuickTest Professional のセットアップ手順の概要を示します。シート・ライセンスは，インストールしたコンピュータにのみ有効な無期限のライセンスです。シート・ライセンスには 30 日間の評価期間があり，この期間内は Unified Functional Testing を含む QuickTest の全機能を使用できます。評価期間内に HP に連絡して，永久シート・ライセンス・キーを取得する必要があります。

---

**注：**

- ▶ デモ・ライセンスを使用して QuickTest を実行する場合、ライセンス・インストール・ウィザードは実行しないでください。QuickTest を初めて開くと、試用期間の開始が通知されます。
  - ▶ Windows サーバや Citrix など、セッション機能があるオペレーティング・システムでは、シート・ライセンスは使用できません。
- 

**シート・ライセンスを使って QuickTest Professional をセットアップするには、次の手順で行います。**

- 1 QuickTest Professional をインストールすると、[インストールの追加要件] 画面が開きます。[ **ライセンス インストール ウィザードの実行** ] が選択されていることを確認し、[ **実行** ] をクリックします。
- 2 ライセンス・インストール・ウィザードの[ライセンスの種類]画面が開いたら、[ **シートライセンス** ] を選択します。詳細については、31 ページの「QuickTest Professional のインストール」の手順 13 を参照してください。
- 3 QuickTest Professional を実行します。表示された警告メッセージで [ **インストール** ] をクリックし、HP からのシート・ライセンス・キーを申請します。詳細については、「シート・ライセンス・キーの申請」(65ページ)を参照してください。
- 4 HP からライセンス・キーを受け取ったら、ライセンス・インストール・ウィザードを再度実行して、ライセンス・キーをインストールします。詳細については、「シート・ライセンス・キーのインストール」(68ページ)を参照してください。

## コンカレント・ライセンスを使った QuickTest Professional の セットアップ

本項では、コンカレント・ライセンスを使った QuickTest Professional のセットアップ手順の概要を示します。コンカレント・ライセンスは、HP Functional Testing Concurrent License Server を持っている場合にのみ使用可能なセッションごとのライセンスです。サーバにアクセスできれば、コンカレント・ライセンスを無料で使用できます。

**コンカレント・ライセンスを使って QuickTest Professional をセットアップするには、次の手順で行います。**

- 1 HP Functional Testing Concurrent License Server をネットワーク・コンピュータにインストールして、ライセンスを有効にします。詳細については、『HP Functional Testing Concurrent License Server インストール・ガイド』を参照してください。このガイド (**MerLicSvr.pdf**) は、HP Functional Testing Concurrent License Server がインストールされているコンピュータにインストールされます。
- 2 各クライアント・コンピュータで QuickTest Professional セットアップ・プログラムを実行します。[ライセンスの種類]画面で[**コンカレントライセンス**]を選択します。詳細については、31ページの「QuickTest Professional のインストール」の手順 13 を参照してください。
- 3 QuickTest Professional の使用を開始します。QuickTest Professional が開くと、指定されたライセンス・サーバが自動的に検索され、これに接続されます。

---

**注:** コンピュータがライセンス・サーバを見つけられず、接続できない場合は、LSHOST または LSFORCEHOST 変数の設定が必要になることがあります。詳細については、『HP Functional Testing Concurrent License Server インストール・ガイド』を参照してください。

---

## QuickTest Professional のインストールに関する留意点

- ▶ QuickTest Professional バージョン 9.2 以前から QuickTest Professional にアップグレードする場合は、最初に現在の QuickTest バージョンと ALM/QC 用の QuickTest アドインをアンインストールする必要があります。アンインストールを行わないと、インストール処理が始まりません。アンインストール処理の最後に、コンピュータを再起動します。その後、新しいバージョンとアドインをインストールします。保存と復元ユーティリティを使用して、古いバージョンの QuickTest をアンインストールする前に既存のカスタマイズ設定やレジストリ・キーを保存しておき、新しいバージョンをインストールした後にそれらを復元できます。詳細については、「QuickTest の設定の保存と復元」(113 ページ)を参照してください。
- ▶ QuickTest Professional バージョン 9.5 以降からアップグレードする場合は、インストール・ウィザードによって自動的に QuickTest の以前のバージョンがアップグレードされ、QuickTest Professional がインストールされます。アップグレードを行っても、[オプション] の設定やウィンドウのレイアウト、およびすべてのテストなどの既存の設定を保持されます。
- ▶ QuickTest Professional は、コンカレント・ライセンス・サーバとして、Sentinel RMS License Manager バージョン 8.3.0 をサポートしています。コンカレント・ライセンスを持つ QuickTest Professional をアップグレードする場合、コンカレント・ライセンス・サーバもアップグレードする必要があります。コンカレント・ライセンス・サーバへの接続に関する詳細については、『HP Functional Testing Concurrent License Server インストール・ガイド』を参照してください。
- ▶ Astra QuickTest および Astra LoadTest、あるいはそのどちらかがインストールされている場合は、QuickTest Professional をインストールする前にそれらをアンインストールしておく必要があります。QuickTest Professional をインストールした後、その他の HP 製品を再インストールできます。
- ▶ インストール処理中に [ HP QuickTest Professional 使用中のファイル ] ダイアログ・ボックスが表示された場合は、次の手順で行います。
  - ▶ ダイアログ・ボックスに一覧表示されているアプリケーションを閉じて [ 再試行 ] をクリックします。
  - ▶ [ HP QuickTest Professional 使用中のファイル ] ダイアログ・ボックスが再び表示されたら、[ 終了 ] ボタンをクリックして、コンピュータを再起動します。コンピュータの再起動後はどのアプリケーションも開かないでください。QuickTest Professional セットアップ・プログラムを再度実行します。
  - ▶ 再起動中に [ HP QuickTest Professional 使用中のファイル ] ダイアログ・ボックスに開いているアプリケーションとして Explorer が表示された場合は、[ 続行 ] をクリックします。プロンプトが表示されたら、インストールの最後にコンピュータを再起動します。

## QuickTest Professional のインストール

QuickTest Professional の DVD には、インストールのセットアップ・プログラムが含まれています。

**QuickTest Professional をインストールするには、次の手順で行います。**

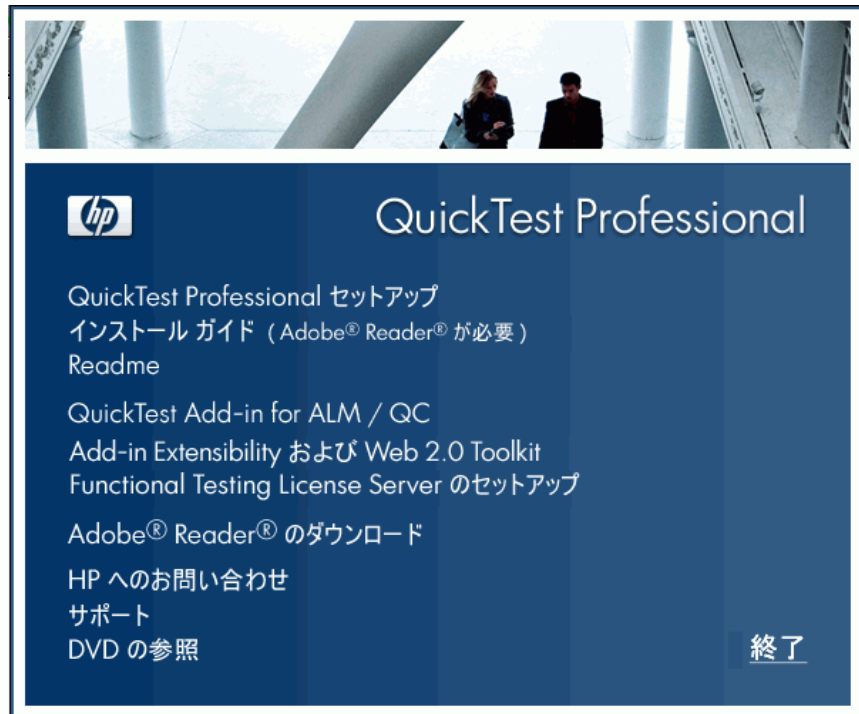
**1 前提条件：**

- a 管理者権限でログインしていることを確認します。
- b QuickTest Professional をインストールするローカル・ドライブを選択します（ネットワーク・ドライブには QuickTest Professional をインストールしないでください）。
- c QuickTest Professional のインスタンスをすべて閉じます。その他のアプリケーションもすべて閉じることを推奨します。

**2 DVD ドライブに QuickTest Professional インストール DVD を挿入します。**

- ▶ DVD を挿入した DVD ドライブがローカル・コンピュータのドライブで、自動再生が有効になっている場合、[ QuickTest Professional セットアップ ] ウィンドウが開きます。コンピュータで自動再生が無効になっている場合、DVD ドライブを右クリックして [ **Autoplay** ] を選択します。
- ▶ ネットワーク・ドライブからインストールする場合は、CD のルート・フォルダにある **setup.exe** をダブルクリックします。

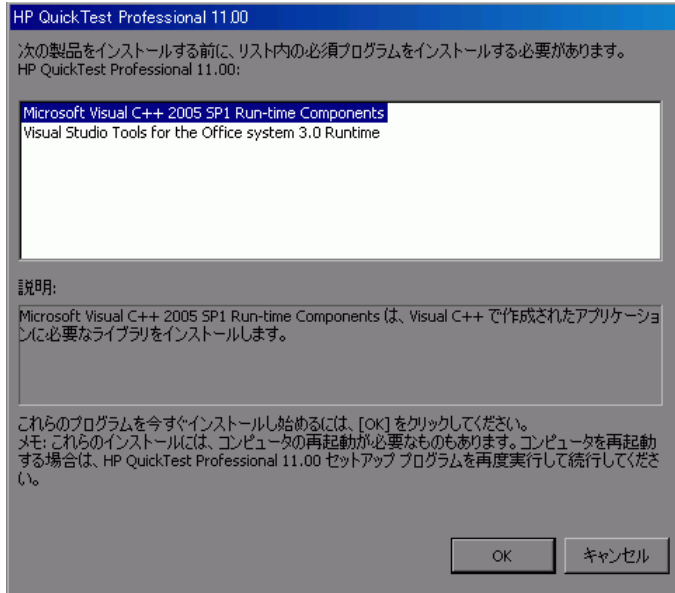
[ セットアップ ] ウィンドウが開きます。



QuickTest Professional の [ セットアップ ] ウィンドウで使用可能なオプションの詳細については「 [ QuickTest Professional セットアップ ] ウィンドウのオプション」(45 ページ) を参照してください。

- 3 [ **QuickTest Professional セットアップ** ] をクリックして、QuickTest Professional セットアップ・プログラムを開始します。

- 4 QuickTest では、QuickTest をインストールする前に Microsoft Visual C++ Runtime コンポーネントなどの特定のソフトウェアがインストールされている必要があります。セットアップによって、前提条件のソフトウェアがコンピュータにインストールされていないことが検出された場合は、次の画面が開きます。



---

**ヒント**：リスト内の項目を選択するとプログラムの説明が表示されます。

---

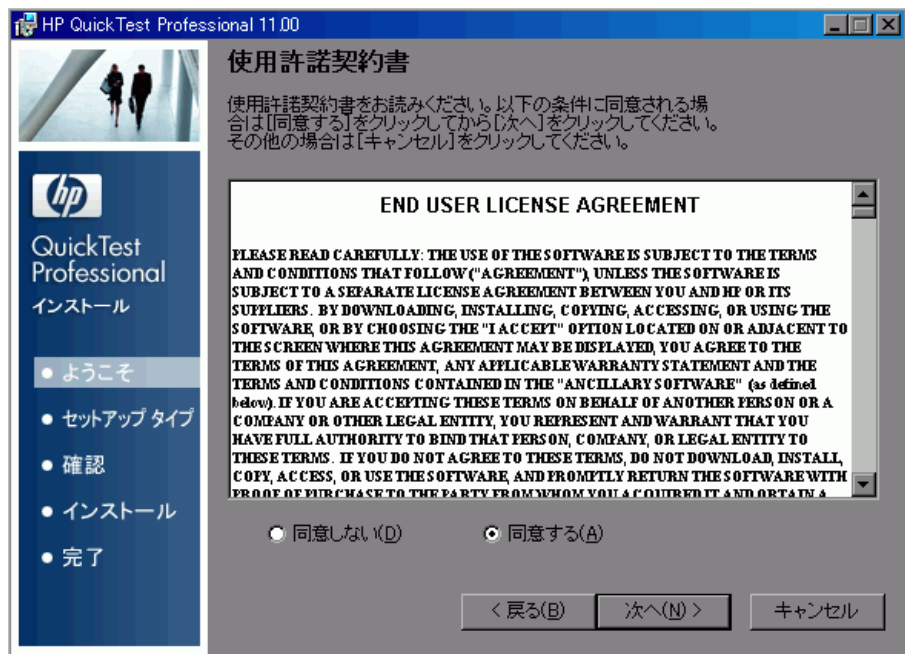
[ **OK** ] をクリックし、画面の指示に従ってリストされたソフトウェアをインストールした後、QuickTest のインストールを続けます。[ **キャンセル** ] をクリックした場合、前提条件のソフトウェアがなければ QuickTest をインストールできないため、セットアップは停止します。

場合によっては、前提条件のソフトウェアをインストールした後にコンピュータの再起動を求められることがあります。コンピュータの再起動後にインストールを続行するには、セットアップ・プログラムを再実行してください。



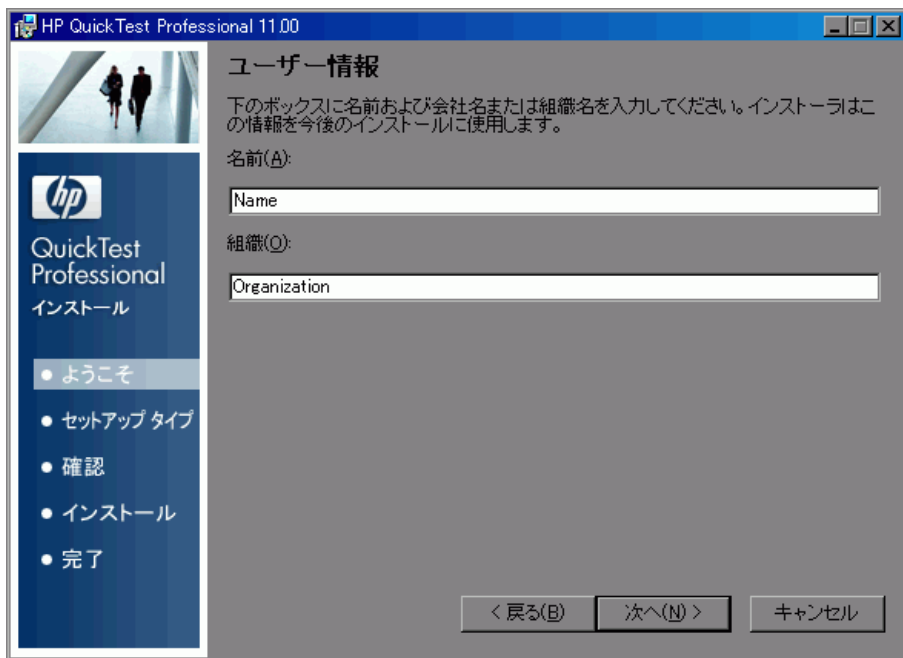
**注：バージョン 9.5 以降** からアップグレードする場合は、以前のバージョンの QuickTest がインストールされていることを通知するメッセージが表示され、セットアップ・プログラムは、インストールを続行する前に、以前の設定およびテストを保存してから以前のバージョンをアップグレードします。アップグレード処理によって、QuickTest のウィンドウ・レイアウト、[ オプション ] ダイアログ・ボックスおよび [ 設定 ] ダイアログ・ボックスのすべての設定など、すべての設定が保存されます。さらに、「QuickTest の設定の保存と復元」(113 ページ)の「保存されたファイルと設定」の項で一覧表示されているファイルと設定が保存されます。[ OK ] をクリックして続行します。

- 5 [ HP QuickTest Professional セットアップ ウィザードへようこそ ] が開きます。[ 次へ ] をクリックして続行します。
- 6 [ 使用許諾契約書 ] 画面が開きます。契約内容を読みます。



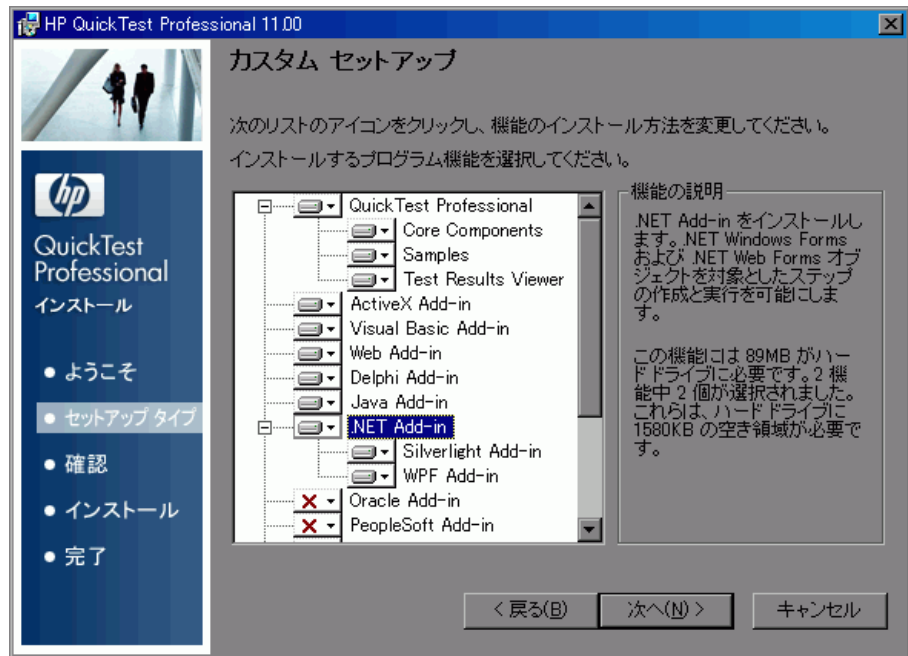
QuickTest Professional をインストールするには、[ 同意する ] を選択し、[ 次へ ] をクリックしてライセンス契約の条項に同意する必要があります。

7 [ ユーザー情報 ] 画面で、自分の名前と組織名を入力します。



[ 次へ ] をクリックして続行します。

- 8 [カスタム セットアップ]画面で、インストールする QuickTest コンポーネントおよびアドインを選択します。



**注：**QuickTest アドインをロードすると、対応する環境で QuickTest の作業ができるようになります。必要なアドインは、QuickTest Professional のインストール時にインストールできます。また後からでも、インストール・プログラムをもう一度実行してインストールできます。QuickTest を開くとき、QuickTest Professional アドイン・マネージャのダイアログ・ボックスを使って、インストール済みのアドインからロードするアドインを選択します。アドイン・マネージャの詳細については、『HP QuickTest Professional アドイン・ガイド』を参照してください。

リスト内の項目を選択すると、機能の説明や、その機能が必要とするドライブの容量を表示できます。

アイコンをクリックしてメニューを表示し、機能をコンピュータにインストールする方法を選択します。機能に応じて次のオプションを選択できます。



▶ [ **ローカル ハード ドライブにインストールします。** ] 選択した機能をローカル・ハード・ディスク・ドライブにインストールします。選択した機能のサブ機能はインストールされません。



▶ [ **機能全体をローカル ハード ドライブにインストールします。** ] 選択した機能全体とその下位機能をローカル・ハード・ディスク・ドライブにインストールします。たとえば、サブアドイン、Silverlight、Windows Presentation Foundation とともに .NET Add-in をインストールするように QuickTest に指示できます。



▶ [ **機能全体をインストールしません。** ] 機能をインストールから除外し、QuickTest で使用できないようにします。

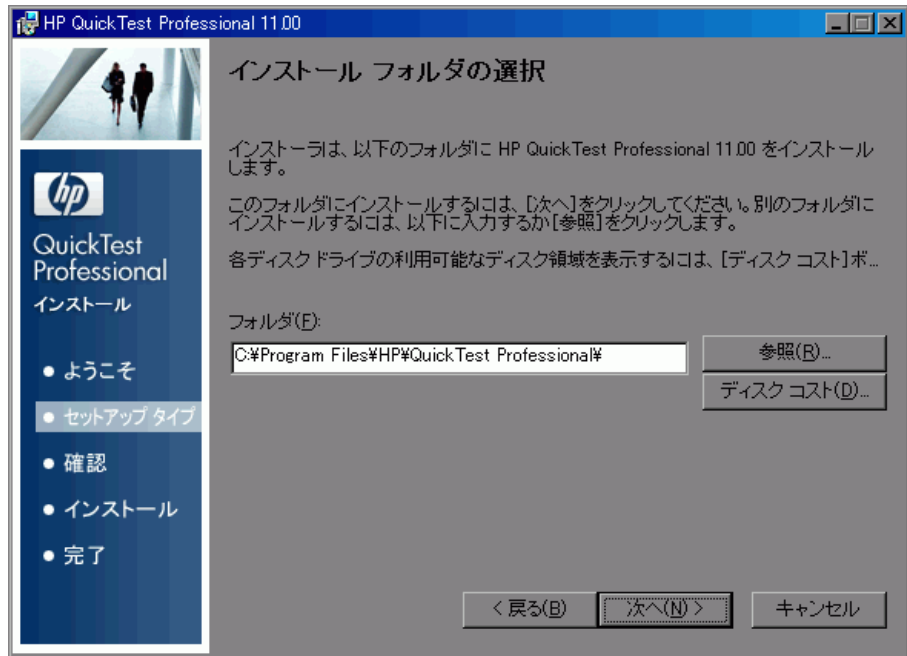
---

**注：** QuickTest Professional とそのコア・コンポーネント、および Run Results Viewer のオプションは、選択解除できません。

---

[ 次へ ] をクリックします。バージョン 9.5 以降 からアップグレードしている場合は、アップグレードのインストールによって QuickTest Professional が、以前のバージョンの QuickTest がインストールされていたのと同じフォルダに自動的にインストールされます。手順 10 に進みます。

- 9 [インストールフォルダの選択]画面で、QuickTest Professional をインストールする場所を選択します。



- ▶ 表示されているパスと異なる場所を選択するには、[参照]をクリックしてフォルダを選択し、続いて[OK]をクリックします。UNC パスではない、割り当て済みのドライブ内のフォルダを指定します。インストール先フォルダが存在しない場合は、セットアップ・プログラムがフォルダを作成します。
- ▶ 必要容量および割り当て済みの各ドライブで使用可能な容量を表示するには、[ディスク コスト]をクリックします。

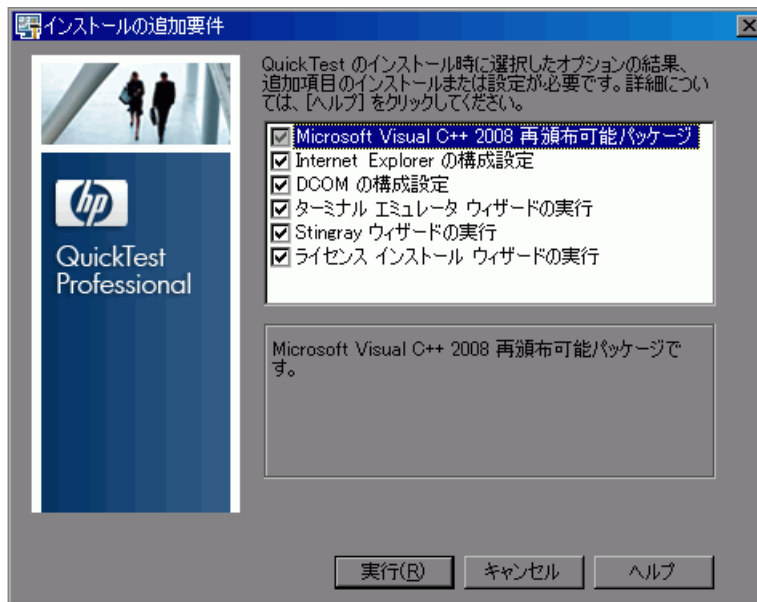
QuickTest Professional をインストールするドライブにハード・ディスクの空き領域が十分にあることを確認します。詳細については、『HP QuickTest Professional 最初にお読みください』に記載されているシステム要件を参照してください。

[次へ]をクリックして続行します。

- 10 [インストールの確認]画面が開きます。[次へ]をクリックして先に進みます。インストールが始まります。[HP QuickTest Professional をインストールします]画面に、インストールの進行状況が表示されます。

11 インストールが完了したら、[完了]をクリックします。

[インストールの追加要件]画面が開きます。



---

**注：**QuickTest のインストールが完了した後、バックグラウンドで HP Run Results Viewer のインストールが実行されます。そのため、[インストールの追加要件]画面が開くまでにしばらく時間がかかります。

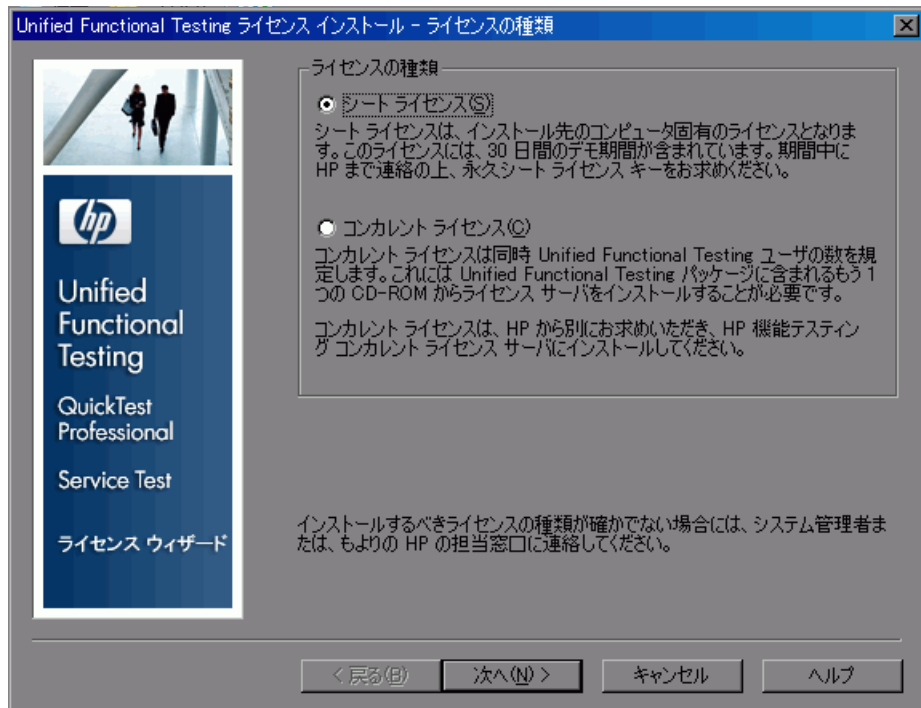
---

[インストールの追加要件]画面では、Internet Explorer および DCOM の設定や、ライセンス・ウィザードの実行を選択できるほか、インストール時に選択したオプションに応じて、QuickTest を使用するためにインストールまたは設定する必要のある前提条件のソフトウェアが表示されます。

必要なインストール・オプションを選択します。これらのオプションの詳細については、「インストールの追加要件ユーティリティの使用 (35 ページ)」を参照してください。

ヒント：オプション名を選択すると機能の説明が表示されます。

- 12 選択項目をインストールまたは設定するには、[ インストールの追加要件 ] 画面で [ 実行 ] をクリックします。
- 13 **ライセンス・インストール・ウィザード**の実行を選択した場合は [ QuickTest Professional ライセンス インストール - ライセンスの種類 ] 画面が開きます。



ライセンスの種類を選択します（さまざまなライセンスの種類のセットアップに必要なプロセスの詳細については、「QuickTest Professional のライセンスの種類ごとのセットアップについて」（18ページ）を参照してください。ライセンスの使用の詳細については、「QuickTest Professional ライセンスの使用方法」（63ページ）を参照してください）。

▶ **[ シート ライセンス ]**: このコンピュータ用に作成されたライセンスを使用します。

シート・ライセンスは、インストールしたコンピュータにのみ有効な無期限のライセンスです。このオプションには 30 日の評価期間も含まれています。永久シート・ライセンス・キーは、評価期間内に HP Webware License Key Delivery Service で申請してください。シート・ライセンス・キーを受け取ってから有効にすると、無期限で QuickTest Professional を使用できます。詳細については、「シート・ライセンス・キーの申請」（65ページ）を参照してください。

[ シート ライセンス ] を選択した場合は、手順 14（33ページ）に進みます。

▶ **[ コンカレント ライセンス ]**: ネットワーク・ベースのライセンスを使用します。

ネットワーク上のライセンス・サーバによって QuickTest Professional のコンカレント・ユーザの数が規制されます。コンカレント・ライセンスを使用するには、ローカル・ネットワークにコンカレント・ライセンス・サーバがインストールされていて、ライセンス・サーバに現在使用されていないライセンスが少なくとも 1 つ必要です。

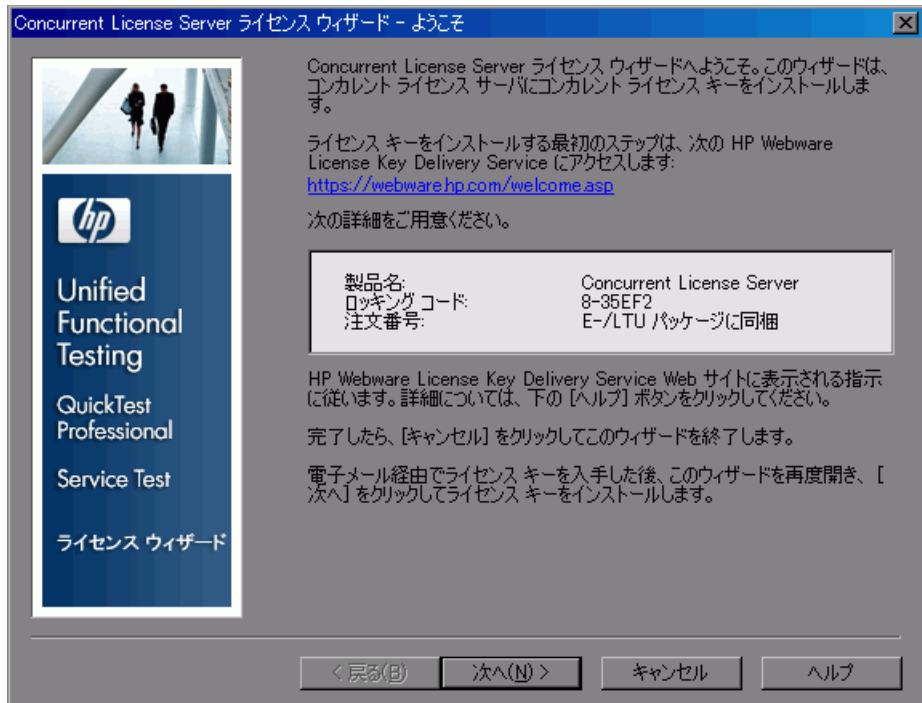
[ 次へ ] をクリックすると [ ライセンスのインストール - コンカレント・ライセンス・サーバ ] ダイアログ・ボックスが開きます。接続先のコンカレント・ライセンス・サーバの名前がわかっている場合は、その名前をテキスト・ボックスに指定できます。[ **接続をチェック** ] をクリックして、使用しているネットワーク経由からライセンス・サーバにアクセスできるかどうかを確かめることができます。

このオプションを選択してコンカレント・ライセンス・サーバを指定しない場合、QuickTest を開いたときに QuickTest がサーバの検索を試みます。

詳細については、『HP Functional Testing Concurrent License Server インストール・ガイド』を参照してください。



- 14 シート・ライセンスを使用して QuickTest をインストールした場合は、  
[ QuickTest Professional ライセンスのインストール - ようこそ ] 画面が開きます。

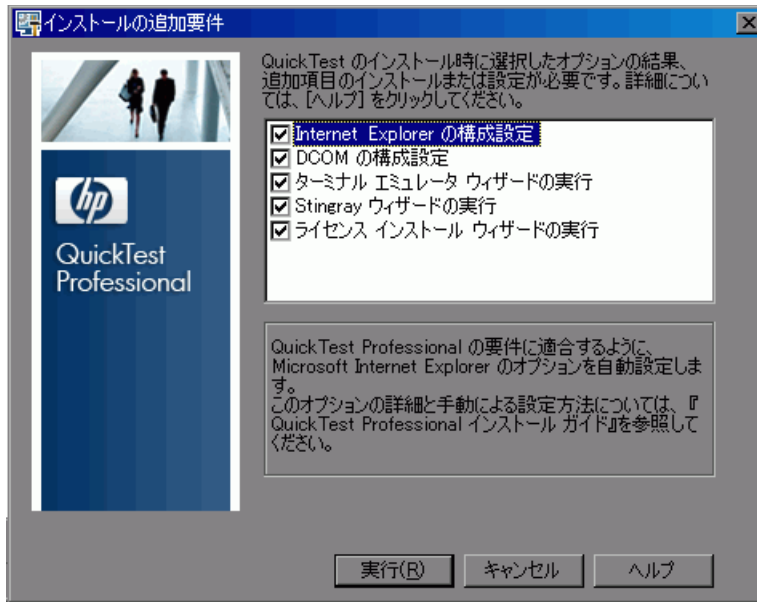


シート・ライセンス・キー・コードを持っている場合は、72 ページの手順 3 に進んでシート・ライセンスをインストールします。

ライセンス・キーを持っていない場合は、表示されるお使いのコンピュータのロッキング・コードをメモしてください。ライセンス・キーを申請する際に必要となります。ライセンス・キーを申請するには、**HP Webware License Key Delivery Service** の [ QuickTest Professional License Installation - Welcome ] 画面のリンクをクリックします。「HP Webware License Key Delivery Service へのライセンス・キーの申請」(67 ページ) に示す指示に従い、[ **キャンセル** ] をクリックします (QuickTest を開くと、シート・ライセンスをインストールするよう求められます)。

- 15 インストールは、[ インストールの追加要件 ] 画面で選択したオプションをインストールしながら続行されます。これらのオプションがインストールされ、お使いのコンピュータで設定された後、画面が再び開きます。

正常にインストールまたは設定されたオプションの横に、チェックマークが表示されます。



---

**ヒント：**インストールの追加要件ユーティリティは、[ **スタート** ] > [ **プログラム** ] > [ **QuickTest Professional** ] > [ **Tools** ] > [ **Additional Installation Requirements** ] を選択していつでも実行できます。

---

- 16 インストールの最後に「HP QuickTest Professional 最初にお読みください」を開く場合は、[ **Reame を表示する** ] をクリックします。
- 17 [ **閉じる** ] をクリックします。[ **インストールの完了** ] 画面が開きます。
- 18 [ **完了** ] をクリックします。

---

**注：**場合によっては、QuickTest をインストールした後にコンピュータの再起動を求められることがあります。再起動を求められた場合は、できるだけ速やかにコンピュータを再起動することをお勧めします。システムの再起動を先延ばしにすると、QuickTest に予期しない動きが生じる可能性があります。

---

## インストールの追加要件ユーティリティの使用

QuickTest のインストール後、QuickTest を使用するために、前提条件のソフトウェアをいくつかインストールして設定しておく必要があります。また、QuickTest Professional のデバッグ機能やリモート・アクセス機能を活用できるように、Internet Explorer および DCOM について特定の設定を行う必要があります。

[ インストールの追加要件 ] 画面には、QuickTest のインストール時またはインストールの変更時に選択したオプションに応じて、QuickTest を使用するためにインストールまたは設定しておく必要のある、前提条件のソフトウェアがすべて表示されます。詳細については、「インストールの追加前提条件」(36 ページ) を参照してください。

インストールの追加要件ユーティリティを使用して、QuickTest のインストール時に、必要な設定を自動的に行うことができるほか、ライセンス・インストール・ウィザードと Microsoft Debugger のインストールを実行できます。

- ▶ [ インストールの追加要件 ] ダイアログ・ボックスでオプション名を選択すると、機能の説明が表示されます。
- ▶ 必要なオプションのチェック・ボックスを 1 つまたは複数選択し、[ **実行** ] をクリックします。

インストールの追加要件ユーティリティは、[ **スタート** ] > [ **プログラム** ] > [ **HP QuickTest Professional** ] > [ **Tools** ] > [ **Additional Installation Requirements** ] を選択していつでも実行できます。このダイアログ・ボックスでは、Internet Explorer および DCOM の設定や、ライセンス・ウィザードの実行を選択できるほか、QuickTest を使用するためにさらにインストールする必要のある前提条件のソフトウェアが表示されます。

## インストールの追加前提条件

[ インストールの追加要件 ] ダイアログ・ボックスに一覧表示される、インストールに必要な追加要件には、QuickTest のインストール時またはインストールの変更時に選択したオプションに応じて、次のものが含まれる可能性があります。

- ▶ [ **Microsoft Visual C++ 2008 Redistributable** ]: この項目が表示されるのは、Stingray Add-in がインストールされている場合のみです。
- ▶ [ **Microsoft WSE 3.0 Runtime** ]: 発行されている Web サービス仕様に基づいてアプリケーションを実行するための基盤を提供します。この項目が表示されるのは、この項目がその時点でまだインストールされておらず、かつ、Web サービス・アドインがインストールされている場合のみです。
- ▶ [ **Microsoft SOAP Toolkit 3.0B** ]: Web サービス機能を COM コンポーネントおよびアプリケーションに提供します。この項目が表示されるのは、この項目がその時点でまだインストールされておらず、かつ、Web サービス・アドインがインストールされている場合のみです。
- ▶ [ **Microsoft Script Debugger** ]: QuickTest でテスト実行時に使用するデバッグ環境を提供します。この項目が表示されるのは、この項目がその時点でまだインストールされていない場合のみです。
- ▶ [ **ターミナル・エミュレータ・ウィザード** ]: このウィザードを使用して、ターミナル・エミュレータの識別設定を行うことができます。この項目が表示されるのは、ターミナルエミュレータ (TE) アドインがインストールされている場合のみです。
- ▶ [ **Stingray ウィザード** ]: このウィザードを使用して、Stingray アプリケーションと連携するよう QuickTest を設定できます。この項目が表示されるのは、Stingray アドインがインストールされている場合のみです。

このほか、インストールの追加要件ユーティリティでは次の操作も実行できます。

- ▶ [ **Internet Explorer の構成設定** ]: このチェック・ボックスを選択すると、Internet Explorer のオプションが自動的に設定され、テスト実行時に QuickTest で Microsoft Script Debugger アプリケーションを使用できるようになります。

これらのオプションは、QuickTest の実行前に手動で設定できます。Internet Explorer で、[ ツール ] > [ インターネット オプション ] > [ 詳細設定 ] を選択します。そして、[ スクリプト デバッグを使用しない ] および [ サードパーティ製のブラウザ拡張を有効にする ] を選択します。

- ▶ **[ DCOM の構成設定 ]**: このチェック・ボックスを選択すると、DCOM のアクセス許可とセキュリティ設定が自動的に変更され、QuickTest コンピュータのファイアウォールで、ある特定のポートが開放されます。

これらの変更が必要になるのは、QuickTest テストを Quality Center からリモート実行する場合、かつ、QuickTest を Windows XP Service Pack 2 またはそれ以降、Windows 2003 Server、Windows Vista、あるいは Windows 7 で実行する場合のみです。

これらのオプションを自動的に設定するよう選択した場合に QuickTest によって加えられる変更の詳細については、「DCOM のアクセス許可の手動変更による QuickTest のリモート実行の有効化」(38ページ)で説明している手順を参照してください。

QuickTest のインストール中にリモート実行オプションを自動的に設定しない場合は、Quality Center から QuickTest のテストをリモートで実行する前に、次の作業が可能です。

- ▶ 後で、[ **スタート** ] > [ **プログラム** ] > [ **HP** ] > [ **QuickTest Professional** ] > [ **Tools** ] > [ **Additional Installation Requirements** ] を選択して、インストールの追加要件ユーティリティを実行できます。
- ▶ 必要な変更を手動で行う。これらの手動による変更の詳細については、「DCOM のアクセス許可の手動変更による QuickTest のリモート実行の有効化」(38ページ)を参照してください。
- ▶ リモート・エージェント ( < **QuickTest Professional インストール** > **¥bin¥AQTRmtAgent.exe** ) を後で実行して、必要な変更を自動で行う。

---

**注**: Windows XP Service Pack 2 以降、Windows 2003 Server、あるいは Windows Vista における DCOM のセキュリティの変更に関する質問は、マイクロソフトのサポートにお問い合わせください。

---

- ▶ **[ ライセンス インストール ウィザードの実行 ]**: このチェック・ボックスを選択すると、QuickTest Professional ライセンス・ウィザードが実行されます。Unified Functional Testing のデモライセンス (最大 30 日間有効) を使用して QuickTest を実行している場合は、このチェックボックスを選択しないでください。

---

**注：**このオプションは、QuickTest Professional バージョン 9.5 以降からアップグレードするときに自動的に選択されません。ライセンス・データが保持されるためです。ただし、アップグレードの前にライセンスをインストールしていない場合は、このチェック・ボックスを選択して、QuickTest Professional ライセンス・ウィザードを実行します。

---

## DCOM のアクセス許可の手動変更による QuickTest のリモート実行の有効化

本項では、DCOM のアクセス許可を手動で変更してファイアウォールのポートを開き、QuickTest のリモート実行を可能にする方法を説明します。これらの変更は、Windows XP Service Pack 2、Windows 2003 Server Service Pack 1（またはそれ以降）、Windows Vista、Windows 7 のいずれかで QuickTest を実行している場合にのみ必要です。

QuickTest のインストール中にこれらの変更を自動的に行うように選択した場合、手作業によるこれらの変更を行う必要はありません。QuickTest テストを Quality Center からリモート実行する予定がない場合、手作業によるこれらの変更は必要ありません。

---

**注：**本項で説明するセキュリティ設定の変更は、システム管理者が行うことをお勧めします。Windows XP Service Pack 2、Windows 2003 Server Service Pack 1（またはそれ以降）あるいは Windows Vista における DCOM のセキュリティの変更に関する質問は、マイクロソフトのサポートにお問い合わせください。

---

---

**ヒント：**HP カスタマー・サポートのナレッジ・ベースに、これらの変更の実行を支援するユーティリティがあります。詳細については、HP Software セルフ・ソルブ・ナレッジベース (<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/document/KM196144>) を参照し、製品 ID 43245 を検索してください。ナレッジ・ベース領域では、HP パスポート・ユーザとして登録してログインすることを求められます。

---

QuickTest のリモート実行を手動で有効にするには、次の手順で行います。

- ▶ Windows でリモート・ユーザを認証できるようにします (39ページを参照)。
- ▶ DCOM 用にポート 135 を通過できるように Windows ファイアウォールを設定します (39ページを参照)。
- ▶ DCOM のセキュリティ・プロパティを変更します (40ページを参照)。
- ▶ QuickTest Remote Agent DCOM アプリケーションのセキュリティを設定します (42ページを参照)。

また、テストをリモート実行する前に、QuickTest の [ オプション ] ダイアログ・ボックスの [ 実行 ] タブで、[ **他の HP 製品でテストおよびコンポーネントを実行可能にする** ] オプションが選択されていることを確認する必要があります。詳細については、『HP QuickTest Professional ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

**Windows でリモート・ユーザを認証できるようにするには、次の手順で行います。**

- 1 両方のコンピュータを同じドメインに追加します。
- 2 両方のマシンにログインするドメイン・ユーザを、QuickTest コンピュータの Local Administrators グループに追加します。こうすることで Windows は、DCOM オブジェクトを対象とするテストを行うリモート・ユーザを認証できるようになります。

**DCOM 用にポート 135 を通過できるように Windows ファイアウォールを設定するには、次の手順で行います。**

---

**注：**Windows XP Service Pack 2、Windows 2003 Server あるいは Windows Vista にインストールされているファイアウォールを無効にしている場合、次の手順で説明するように DCOM 用にポート 135 を開く必要はありません。

---

- 1 QuickTest コンピュータ上で、[ **スタート** ] > [ **設定** ] > [ **コントロール パネル** ] > [ **Windows ファイアウォール** ] を選択します。[ Windows ファイアウォール ] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 [ **例外** ] タブを選択します。
- 3 [ **プログラムの追加** ] をクリックします。[ **プログラムの追加** ] ダイアログ・ボックスが開きます。

- 4 [ リモートエージェント ] ( < QuickTest Professional のインストール先 > %bin%AQTRmtAgent.exe ) を選択または参照して , [ OK ] をクリックします。

---

**注：** 前述の説明のように [ リモートエージェント ] を例外として設定しないと、テストのリモート実行中に Windows セキュリティ警告が表示されます。この問題を解決するには、[ **ブロックを解除する** ] をクリックします。次回から自動テストをリモート実行したときに警告が表示されなくなります。

---

- 5 [ OK ] をクリックし、[ Windows ファイアウォール ] ダイアログ・ボックスを閉じます。

---

**注：** 詳細については、下記がよく使用されるサービスポートの一覧を参照してください。[http://www.microsoft.com/resources/documentation/Windows/2000/server/reskit/en-us/Default.asp?url=/resources/documentation/windows/2000/server/reskit/en-us/cnet/cnfc\\_por\\_SIMW.asp](http://www.microsoft.com/resources/documentation/Windows/2000/server/reskit/en-us/Default.asp?url=/resources/documentation/windows/2000/server/reskit/en-us/cnet/cnfc_por_SIMW.asp)

---

**DCOM のセキュリティ・プロパティを変更するには、次の手順で行います。**

- 1 [ スタート ] > [ ファイル名を指定して実行 ] を選択し、「dcomcnfg」と入力して、ENTER キーを押します。[ コンポーネント サービス ] ウィンドウが表示されます。
- 2 [ コンソールルート ] > [ コンポーネント サービス ] > [ コンピュータ ] > [ マイ コンピュータ ] に移動します。

---

**注：** Windows セキュリティ警告が表示されたら、[ **後で確認する** ] または [ **ブロックを解除する** ] をクリックします。

---

- 3 [ マイ コンピュータ ] を右クリックして、[ **プロパティ** ] を選択します。



- 4 [既定のプロパティ] タブを選択します。
- 5 [既定の偽装レベル] が [識別する] になっていることを確認して, [適用] をクリックします。
- 6 [COM セキュリティ] タブを選択します。
- 7 [アクセス許可] 領域で, [制限の編集] をクリックします。[アクセス許可] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 8 [追加] をクリックします。[ユーザーまたはグループの選択] ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 9 [詳細設定] をクリックします。
- 10 [場所] をクリックします。ダイアログ・ボックスの中で, 対象コンピュータの名前を選択し, [OK] をクリックします。
- 11 [今すぐ検索] をクリックします。
- 12 ローカル・コンピュータの次のユーザおよびグループを選択して, [OK] をクリックします。
  - ▶ Administrator
  - ▶ Administrators
  - ▶ Authenticated Users
  - ▶ Anonymous Logon
  - ▶ Everyone
  - ▶ Interactive
  - ▶ Network
  - ▶ System
- 13 ドメインに属する次のユーザを追加し, [OK] をクリックします。
  - ▶ <QuickTest コンピュータにログインしているドメイン・ユーザ>
  - ▶ <リモート実行を行う Quality Center コンピュータにログインしているドメイン・ユーザ>
- 14 [アクセス許可] ダイアログ・ボックスで, [ローカル アクセス] と [リモート アクセス] の許可をリスト内のグループとユーザに割り当て, [OK] をクリックします。
- 15 [起動とアクティブ化のアクセス許可] 領域で, [制限の編集] をクリックします。[起動許可] ダイアログ・ボックスが開きます。

16 手順 8 から 13 を繰り返します。

17 [アクセス許可] ダイアログ・ボックスで,[ローカルからの起動],[リモートからの起動],[ローカルからのアクティブ化],[リモートからのアクティブ化]の許可をリスト内のグループとユーザに割り当て,[OK]をクリックします。

**QuickTest Remote Agent DCOM アプリケーションのセキュリティを設定するには、次の手順で行います。**

1 [コンポーネント サービス] ウィンドウで,[コンソール ルート] > [コンポーネント サービス] > [コンピュータ] > [マイ コンピュータ] > [DCOM の構成] に移動します。

2 [AQTRmtAgent] 項目を右クリックし,[プロパティ]を選択します。[AQTRmtAgent のプロパティ] ダイアログ・ボックスが開きます。

3 [ID] タブで,[対話ユーザー]を選択します。こうすることで,DCOM アプリケーションはログインしている Windows ユーザに対してプロセスの認証を行い,そのセキュリティ・コンテキストの中でプロセスを実行します。

4 [セキュリティ] タブを選択します。

5 [起動とアクティブ化のアクセス許可] 領域で,[カスタマイズ]を選択し,[編集]をクリックします。[起動許可] ダイアログ・ボックスが開きます。

6 [追加] をクリックします。[ユーザーまたはグループの選択] ダイアログ・ボックスが表示されます。

7 [詳細設定] をクリックします。

8 [場所] をクリックします。ダイアログ・ボックスの中で,対象コンピュータの名前を選択し,[OK] をクリックします。

9 [今すぐ検索] をクリックします。

- 10 ローカル・コンピュータの次のユーザおよびグループを選択して、[ OK ] をクリックします。
  - ▶ Administrator
  - ▶ Administrators
  - ▶ Authenticated Users
  - ▶ Anonymous Logon
  - ▶ Everyone
  - ▶ Interactive
  - ▶ Network
  - ▶ System
- 11 ドメインに属する次のユーザを追加し、[ OK ] をクリックします。
  - ▶ < QuickTest コンピュータにログインしているドメイン・ユーザ >
  - ▶ < リモート実行を行う Quality Center コンピュータにログインしているドメイン・ユーザ >
- 12 [ 起動許可 ] ダイアログ・ボックスで、リスト内のすべてのユーザとグループについて、すべてのアクセス許可で [ 許可 ] を選択して、[ OK ] をクリックします。
- 13 [ アクセス許可 ] 領域で、[ カスタマイズ ] を選択し、[ 編集 ] をクリックします。[ アクセス許可 ] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 14 手順 6 から 12 を繰り返します。
- 15 [ 適用 ] をクリックして変更を保存し、[ OK ] をクリックしてダイアログ・ボックスを閉じます。
- 16 [ コンポーネント サービス ] ウィンドウを閉じます。
- 17 これで、Quality Center から QuickTest テストをリモート実行できるようになります。

---

**注：**テストをリモート実行する前に、QuickTest の [ オプション ] ダイアログ・ボックスの [ 実行 ] タブで、[ 他の HP 製品でテストおよびコンポーネントを実行可能にする ] オプションが選択されていることを確認する必要があります。詳細については、『HP QuickTest Professional ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

---

## Quality Center への接続に使用するユーザ・アカウント制御設定の変更 ( Windows Vista , Windows 7 , Windows Server 2008 , Windows Server 2008 R2 )

Windows Vista , Windows 7 , Windows Server 2008 , Windows Server 2008 R2 で QuickTest を実行している場合 , Quality Center に初めて接続する前にユーザ・アカウント制御 ( UAC : User Account Control ) を無効化する必要があります。最初に Quality Center に接続した後に , ユーザ・アカウント制御 ( UAC : User Account Control ) を有効化することができます。

この変更は , QuickTest を前述のオペレーティング・システムで実行する場合のみ必要です。QuickTest テストを Quality Center からリモート実行する予定がない場合 , 手作業によるこれらの変更は必要ありません。

---

**注 :** 本項で説明するセキュリティ設定の変更は , システム管理者が行うことをお勧めします。前述のオペレーティング・システムにおけるユーザ・アカウント制御 ( UAC : User Account Control ) の変更に関しては , Microsoft サポートへお問い合わせください。

---

UAC オプションを一時的にオフにするには , 次の手順で行います。

### Microsoft Windows Vista および Windows Server 2008 の場合 :

- 1 管理者としてログインします。
- 2 [ コントロールパネル ] で , [ ユーザー アカウント ] > [ セキュリティ設定の変更 ] を選択し [ ユーザー アカウント制御 (UAC) を使ってコンピュータの保護に役立たせる ] チェック・ボックスをクリアします。

### Microsoft Windows 7 および Windows Server 2008 R2 の場合 :

- 1 管理者としてログインします。
- 2 [ コントロールパネル ] で [ ユーザー アカウント ] > [ ユーザー アカウント ] > [ アカウントを変更する ] を選択します。
- 3 [ ユーザーアカウント制御設定の変更 ] ウィンドウで , スライダを動かして [ 通知しない ] にします。

## [ QuickTest Professional セットアップ ] ウィンドウのオプション

[ QuickTest Professional セットアップ ] ウィンドウには、次のオプションがあります。

オプション	説明
QuickTest Professional セットアップ	QuickTest Professional セットアップ・プログラムを起動します。
インストール・ガイド	『HP QuickTest Professional インストール・ガイド』の PDF ファイル (印刷用) を開きます。Adobe Reader をダウンロードする場合は、[ <b>Adobe Reader のダウンロード</b> ] をクリックします。
Readme	『最初にお読みください』のファイルを開きます。
QuickTest Add-in for ALM/QC	<p>コンピュータにインストールされている Quality Center クライアントの機能を有効化します。</p> <p><b>ALM/QC 用 QuickTest アドイン</b> をインストールしない場合は、Quality Center で次の QuickTest 操作のみ実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ テストのリモートからの実行</li> <li>▶ テスト実行パラメータの設定</li> </ul> <p>Quality Center で QuickTest 資産に対してその他の操作を行う場合は、<b>ALM/QC 用の QuickTest アドイン</b> をインストールする必要があります。たとえば、アドインにより、次のことが行えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ Quality Center からテストおよびコンポーネントのスク립トを表示します。</li> <li>▶ Quality Center の [ Run Results ] ウィンドウで実行結果を表示します。</li> <li>▶ Quality Center から新規テストおよびコンポーネントを作成します。</li> <li>▶ QuickTest のユーザ・インタフェース要素が含まれる Quality Center でその他の操作を実行します。</li> </ul> <p>ALM/QC 用 QuickTest アドインの詳細またはアドインの最新バージョンのダウンロードについては、Quality Center で [ QuickTest Professional アドイン ] 画面 ([ ヘルプ ] &gt; [ <b>アドイン ページ</b> ] &gt; [ <b>その他の Quality Center アドイン</b> ] &gt; [ <b>QuickTest Professional アドイン</b> ]) を参照してください。</p> <p><b>注：</b> QuickTest Professional 11.00 は、Quality Center 9.0 以降との統合をサポートします。Business Process Testing では、QuickTest Professional 11.00 は Quality Center 10.00 以降との統合のみサポートします。ALM/QC 用アドインは Quality Center の現在サポートされているすべてのバージョンにインストールできます。サポートされているすべてのバージョンの一覧については、『HP QuickTest Professional 使用可能製品マトリクス』を参照してください (ドキュメント・ライブラリのホーム・ページまたは QuickTest Professional DVD のルート・フォルダから入手可能)。</p>

オプション	説明
<b>Add-in Extensibility および Web 2.0 Toolkit</b>	次のものをインストールできます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ QuickTest Professional Java Add-in Extensibility SDK</li> <li>▶ QuickTest Professional .NET Add-in Extensibility SDK</li> <li>▶ QuickTest Professional WPF および Silverlight Add-in Extensibility SDK</li> <li>▶ Extensibility Accelerator for Functional Testing ( Web Add-in Extensibility SDK を含む )</li> <li>▶ Web 2.0 Toolkit のサポート</li> </ul>
<b>Functional Testing License Server セットアップ</b>	HP Functional Testing Concurrent License Server またはコンカレント・ライセンスをサーバにインストールできます。表示されるダイアログ・ボックスから、『HP Functional Testing Concurrent License Server インストール・ガイド』の PDF ファイルを開くこともできます。
<b>Adobe Reader のダウンロード</b>	Adobe Reader のダウンロード
<b>HP へのお問い合わせ</b>	HP Web サイトで問い合わせ情報のページ ( <a href="http://welcome.hp.com/country/jp/ja/prodserv/software.html">http://welcome.hp.com/country/jp/ja/prodserv/software.html</a> ) を開きます。左上隅の [ <b>HP へのお問い合わせ</b> ] をクリックしてください。
<b>サポート</b>	HP ソフトウェア サポート Web サイト ( <a href="http://www.hp.com/go/hpssoftwaresupport">http://www.hp.com/go/hpssoftwaresupport</a> ) を開きます。
<b>DVD の参照</b>	QuickTest Professional DVD のコンテンツを表示できます。

## 付属しているユーティリティと機能

以前のバージョンの QuickTest の **QuickTest Plus Toolkit** で使用できたユーティリティ、機能、情報は、QuickTest Professional のアプリケーション本体に組み込まれています。次のものが含まれています。

- ▶ コードおよび SDK サンプル。QuickTest カスタム・インストール時に、[ 機能の選択 ] 画面で [ サンプル ] を選択するとインストールできます。詳細については、手順 8 ( 27 ページ ) を参照してください。
- ▶ オブジェクト・リポジトリ結合機能。[ QuickTest オブジェクトリポジトリ結合ツール ] から使用できます。

- ▶ 外部アクション呼び出しの変更ユーティリティ。QuickTest の [ 欠落リソース ] 表示枠で処理されます。
- ▶ ブラウザ・コントロール登録ユーティリティ。
- ▶ ライセンス検証ユーティリティ。

これらのユーティリティと機能，およびよくある質問への回答の詳細については，『HP QuickTest Professional ユーザーズ・ガイド』および「HP ソフトウェア・セルフ・ソルブ技術情報」([support.openview.hp.com](http://support.openview.hp.com)) を参照してください ([ QuickTest Professional セットアップ ] ウィンドウで [ サポート ] をクリック)。

## QuickTest Professional プログラム・フォルダの参照

QuickTest Professional セットアップ・プロセスが完了すると，QuickTest Professional プログラム・フォルダ ([ スタート ] > [ プログラム ] > [ QuickTest Professional ]) にくつかの項目が追加されます。

これらの各項目の詳細については，『HP QuickTest Professional ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

---

**注：**現在のバージョンをインストールする前に QuickTest Professional の旧バージョンをアンインストールした場合には，QuickTest Professional プログラム・フォルダに無効な項目が追加されることがあります。さらに，QuickTest Professional アドインがインストールされている場合，それらのアドインにだけ関連する項目が，プログラム・フォルダに追加されることがあります。

---

## サイレント・インストールの設定

サイレント・インストール（またはquiet インストール）は、バックグラウンドで実行されるインストールです。QuickTest Professional、QuickTest アドイン、ALM/QC アドインを、セットアップ画面の操作やユーザの関与なしに、コンピュータにサイレント・インストールできます。また、QuickTest Professional、QuickTest アドイン、ALM/QC アドインをリモート・コンピュータにインストールすることもできます。

詳細については、次を参照してください。

- ▶ 「QuickTest をサイレント・インストールする前に」(48ページ)
- ▶ 「QuickTest のサイレント・インストール」(51ページ)
- ▶ 「ALM/QC 用 QuickTest アドインのサイレント・インストール」(55ページ)

### QuickTest をサイレント・インストールする前に

QuickTest Professional および ALM/QC アドインをインストールするには管理者権限が必要です（QuickTest のアンインストール、インストールの修復と変更、パッチのインストールなど、他のインストール作業にも管理者権限が必要です）。

以降の各項では、QuickTest Professional および QuickTest アドインのサイレント・インストールを実行する前にコンピュータにインストールしておく必要のある、前提条件のソフトウェアを示します。



## QuickTest Professional および QuickTest アドインに必要なソフトウェア

QuickTest Professional および QuickTest アドインをインストールするには、次のソフトウェアが事前にコンピュータにインストールされている必要があります。これらのソフトウェアは QuickTest インストール DVD にあり、コマンド・ラインからインストールできます。

必要なソフトウェア	サイレント・コマンド・ライン構文
Windows Installer 3.1	QuickTest¥EN¥prerequisites¥msi31¥WindowsInstaller-KB893803-v2-x86.exe ¥quiet
Microsoft Data Access Components 2.8 SP1	QuickTest¥EN¥prerequisites¥mdac28¥mdac28.exe ¥Q
Microsoft Windows Script 5.6 for Windows XP および Windows 2000	QuickTest¥EN¥prerequisites¥wscript_56_win2k¥wscript_56_win2k.exe ¥Q
Microsoft Visual C++ 2005 SP1 Run-time Components	QuickTest¥EN¥prerequisites¥vc2005_sp1_redist ¥Q
Microsoft .NET Framework 3.5 Service Pack 1	QuickTest¥Common¥dotnet35_sp1¥dotnetfx35_sp1.exe ¥quiet
Visual Studio Tools for Office redistributable	QuickTest¥Common¥vstor30¥vstor30.exe ¥q

## ALM/QC に必要なソフトウェア

ALM/QC アドインをインストールするには、次のソフトウェアが事前にコンピュータにインストールされている必要があります。これらのソフトウェアは QuickTest インストール DVD にあり、コマンド・ラインからインストールできます。

必要なソフトウェア	コマンド・ライン構文
<b>Windows Installer 3.1</b>	QuickTest¥EN¥prerequisites¥msi31¥WindowsInstaller-KB893803-v2-x86.exe ¥quiet
<b>Microsoft Visual C++ 2005 SP1 Run-time Components</b>	QuickTest¥EN¥prerequisites¥vc2005_sp1_redist¥Q
<b>Microsoft .NET Framework 3.5 Service Pack 1</b>	QuickTest¥Common¥dotnet35_sp1¥dotnetfx35_sp1.exe¥quiet
<b>Visual Studio Tools for Office redistributable</b>	QuickTest¥Common¥vstor30¥vstor30.exe¥q

---

**注意：**サイレント・インストールをリモートで実行する場合も、前提条件のソフトウェアはローカルにインストールする必要があります。前提条件のソフトウェアがすべてインストールされていないと、サイレント・インストールを開始できません。

---

## QuickTest のサイレント・インストール

本項では、QuickTest の次の機能をコンピュータにサイレント・インストールする方法について説明します。

- ▶ QuickTest Professional
- ▶ QuickTest アドイン
- ▶ インストールの追加要件

ALM/QC 用 QuickTest Professional アドインをインストールする場合、「ALM/QC 用 QuickTest アドインのサイレント・インストール」(55 ページ)を参照してください。

---

**注:** コマンド・ラインから QuickTest をインストール中に、最も標準的な MSI コマンド・ライン・オプションを使用できます。MSI のサイレント・インストール (または quiet インストール) の詳細については、関連する Microsoft のドキュメントを参照してください。

---

### 前提条件

- 1 サイレント・インストールを実行する前に、開いているファイルをすべて保存し、開いているすべてのアプリケーションを閉じることをお勧めします。
- 2 QuickTest Professional に必要なソフトウェアをインストールします。事前にインストールしておく必要のあるソフトウェアの詳細については、「QuickTest をサイレント・インストールする前に」(48 ページ)を参照してください。前提条件のソフトウェアがすべてインストールされていないと、サイレント・インストールを開始できません。

---

**注意:** サイレント・インストールをリモートで実行する場合も、前提条件のソフトウェアはローカルにインストールする必要があります。前提条件のソフトウェアがすべてインストールされていないと、サイレント・インストールを開始できません。

---

### QuickTest , QuickTest アドイン , インストールの追加要件の標準サイレント・インストール

コマンド・ラインで **QTPSilentInstaller.bat** ファイルを実行します。このファイルは次の形式で **msiexec.exe** コマンドを実行し , QuickTest をインストールします。

```
<QTP_DVD_PATH>%QTPSilentInstaller ConcurrentLicenseServer [MsiProperties] [MsiFlags]
```

---

**注 :** インストール・フォルダを指定しない場合 , QuickTest は規定のインストール・フォルダにインストールされます。

---

サイレント・インストールのコマンドの詳細については , 「サイレント・インストールのコマンド」( 57 ページ ) を参照してください。

### QuickTest , QuickTest アドイン , インストールの追加要件のサイレント・アップグレード

コマンド・ラインで **QTPSilentInstaller.bat** ファイルを実行します。その際 , 次の形式で **ALLOW\_UPGRADE** MSI プロパティを使用します。

```
<QTP_DVD_PATH>%QTPSilentInstaller  
ConcurrentLicenseServer "ALLOW_UPGRADE=1" [MsiProperties] [MsiFlags]
```

---

**注 :** バージョン 9.5 以降からのアップグレード時 , QuickTest のウィンドウ・レイアウト , [ オプション ] ダイアログ・ボックスおよび [ 設定 ] ダイアログ・ボックスのすべての設定など , すべての設定が保存されます。さらに , 「QuickTest の設定の保存と復元」( 113 ページ ) の「保存されたファイルと設定」の項で一覧表示されているファイルと設定も保存されます。

---

サイレント・インストールのコマンドの詳細については , 「サイレント・インストールのコマンド」( 57 ページ ) を参照してください。

### インストールする QuickTest の機能の指定

インストールする QuickTest の機能およびアドインを指定するには、サイレント・インストールのコマンド・ラインで ADDLOCAL MSI プロパティを使用します。QuickTest のコア・コンポーネントだけをインストールする場合、このオプションを使用する必要はありません。

このコマンドを使用する場合、次の必須オプションを含める必要があります。

- ▶ **Core\_Components** (親: QuickTest\_Professional)
- ▶ **Test\_Results\_Viewer** (親: QuickTest\_Professional)
- ▶ **Web\_Add-in**

---

**注:** ADDLOCAL プロパティを使用して機能をインストールすると、その親も常にインストールされます。

---

必須オプションに加えて、QuickTest の次の機能およびアドインをインストールできます。

- ▶ .NET\_Add-in
- ▶ ActiveX\_Add-in
- ▶ Java\_Add-in
- ▶ Oracle\_Add-in
- ▶ PeopleSoft\_Add-in
- ▶ PowerBuilder\_Add-in
- ▶ SAP\_Solutions\_Add-in
- ▶ SAP\_eCATT\_integration (親: SAP\_Solutions\_Add-in)
- ▶ Samples (親: QuickTest\_Professional)
- ▶ Siebel\_Add-in
- ▶ Stingray\_Add-in
- ▶ TE\_Add-in

- ▶ VisualAge\_Add-in
- ▶ Visual\_Basic\_Add-in
- ▶ Web\_Services\_Add-in

### QuickTest コア・サイレント・インストールの例

次の例では、アップグレードが完全インストールかによって異なる、サイレント・インストールのさまざまなオプションを示します。

#### 標準インストール：

```
QTPSilentInstaller QtpLicServer "TARGETDIR=C:¥Progra~1¥QTP"  
¥!*vx C:¥Temp¥QtpInstall.log
```

#### アップグレード：

```
QTPSilentInstaller QtpLicServer "ALLOW_UPGRADE=1" "TARGETDIR=<QTP_Folder>"
```

#### Java アドインを含む標準インストール：

```
QTPSilentInstaller QtpLicServer  
"ADDLOCAL=Core_Components,Test_Results_Viewer,Web_Add-in,Java_Add-in"  
"TARGETDIR=<QTP_Folder>"
```

#### 必要となるその他のソフトウェアに関する制限事項

- ▶ 次のインストールに必要なソフトウェアは、サイレント・インストールではインストールされません。

必要なソフトウェア	関連するアドイン
ターミナル・エミュレータ ウィザード	ターミナル・エミュレータ
Stingray ウィザード	Stingray
Microsoft WSE 3.0 Runtime	Web Services
SOAP Toolkit	Web Services

これらの必要なソフトウェアは、インストールの追加要件ユーティリティを使用して手動でインストールする必要があります。必要な追加ソフトウェアのインストールの詳細については、「インストールの追加要件ユーティリティの使用」(35ページ)を参照してください。

- ▶ ALM/QC 用の QuickTest アドインは別のサイレント・インストールでインストールされます。詳細については、「ALM/QC 用 QuickTest アドインのサイレント・インストール」(55ページ)を参照してください。

## ALM/QC 用 QuickTest アドインのサイレント・インストール

ALM/QC 用 QuickTest アドインのインストールに、サイレント・インストールの仕組みを利用できます。ALM/QC 用アドインのサイレント・インストールは、QuickTest Professional のコア・サイレント・インストール(「QuickTest のサイレント・インストール」(51ページ)を参照)とは異なり、コマンド・ラインで `msiexec.exe` を直接入力することで実行します。

### ALM/QC 用 QuickTest アドインのサイレント・インストール

- 1 サイレント・インストールを実行する前に、開いているファイルをすべて保存し、開いているすべてのアプリケーションを閉じることをお勧めします。
- 2 コマンド・ラインから次のいずれかの形式で Microsoft MSI の適切なインストールを実行します。

- ▶ **新規インストール**(以前のバージョンがすでにアンインストールされている場合):

```
msiexec /i "<QTP_DVD_Path>%QCPlugin%MSI%<QC_Plugin_File>" /qn
```

- ▶ **アップグレード**(バージョン 9.5 以降から):

```
msiexec /qn /i "<QTP_DVD_Path>%QCPlugin%MSI%<QC_Plugin_File>"  
ALLOW_UPGRADE=1 TARGETDIR=<QT4QCAddin_Folder>
```

サイレント・インストールのコマンドの詳細については、「サイレント・インストールのコマンド」(57ページ)を参照してください。

### ALM/QC 用 QuickTest アドインのサイレント・インストールの例

次の例では、アップグレードか完全インストールかによって異なる、サイレント・インストールのさまざまなオプションを示します。

#### 標準インストール：

```
msiexec /i "<QTP_DVD_Path>%QCPlugin\MSI  
%QuickTest_Add-in_for_ALM-QC.msi" /qn
```

または

```
msiexec /qn /i "<QTP_DVD_Path>%QCPlugin\MSI>%  
QuickTest_Add-in_for_ALM-QC.msi"
```

#### アップグレード：

```
msiexec /i "<QTP_DVD_Path>%QCPlugin\MSI  
%QuickTest_Add-in_for_ALM-QC.msi" /qn ALLOW_UPGRADE=1  
TARGETDIR=<QT4QCAddin_Folder>
```

または

```
msiexec/qn/i "<QTP_DVD_Path>%QCPlugin\MSI>%  
QuickTest_Add-in_for_ALM-QC.msi" ALLOW_UPGRADE=1  
TARGETDIR=<QT4QCAddin_Folder>
```



## サイレント・インストールのコマンド

次の表に、サイレント・インストールで使用するコマンド、引数、オプションをまとめます（英数字順）。

コマンド / 引数	説明
<b>ADDLOCAL</b> (QuickTest コア・インストールのみ)	任意。サイレント・インストールで QuickTest の特定の機能とアドインをインストールするように指示します。詳細と使用可能な機能については、「インストールする QuickTest の機能の指定」(53 ページ)を参照してください。 <b>注：</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ この引数を使用しない場合、QuickTest は標準のアドインとともにインストールされます。</li> <li>▶ <b>ADDLOCAL</b> コマンドに対して、<b>Test_Results_Viewer</b>、<b>Web_Add-in</b>、<b>Core_Components</b> を必ず指定してください。</li> <li>▶ 値の区切りにはコンマを使用する必要があります。値にスペースが含まれてはなりません。</li> </ul>
<b>ALLOW_UPGRADE</b>	(アップグレードのみ) 必須。サイレント・インストールで、完全インストールではなくアップグレードを実行するように指示します。
<b>ConcurrentLicenseServer</b>	必須。QuickTest のライセンスをインストールするときに指定するライセンス・サーバの名前または IP アドレス。
<b>MsiFlags</b>	任意。 <b>MsiProperties</b> 引数に含まれない MSI オプション、フラグ、その他の命令（例：ログ・コマンド）。
<b>MsiProperties</b>	任意。MSI プロパティまたはパラメータ（例：TARGETDIR）。各 MSI プロパティとその定義は引用符（"）で囲まれている必要があり、スペースが含まれてはなりません。
<b>QC_Plugin_File</b> (ALM/QC 用 QuickTest アドインのインストールのみ)	必須。MSI インストール・ファイルの名前。 <b>注：</b> 使用可能な言語ごとに別々の MSI ファイルがあります。

コマンド / 引数	説明
<b>QT4QC_Folder</b> ( ALM/QC 用 QuickTest アドインのインストールのみ )	( アップグレードのみ ) 必須。以前のバージョンの QuickTest Professional が現在インストールされているフォルダの完全パス文字列です ( 引用符で囲む )。
<b>QTP_DVD_Path</b>	QuickTest インストール DVD またはネットワーク上の場所のパス。QuickTest Professional の .bat ファイルはルート・フォルダのインストール DVD にあります。
<b>QTP_Folder</b> ( QuickTest コア・インストール のみ )	( アップグレードのみ ) 必須。以前のバージョンの QuickTest Professional が現在インストールされているフォルダの完全パス文字列です ( 引用符で囲む )。  <b>注意：</b> QuickTest Professional 9.5 がインストールされているフォルダ以外のフォルダを指定すると、サイレント・インストールで以前のバージョンが完全にアンインストールされ、QuickTest Professional 11.00 がインストールされます。すべての設定が保存されるわけではありません。
<b>QTPSilentInstaller</b>	QuickTest サイレント・インストールの .bat ファイルの名前。

詳細については、次を参照してください。

- ▶ 「QuickTest のサイレント・インストール」( 51 ページ )
- ▶ 「ALM/QC 用 QuickTest アドインのサイレント・インストール」( 55 ページ )

## QuickTest Professional ユーザ・インタフェース・パックのインストール

QuickTest Professional ユーザ・インタフェース・パックにより、QuickTest、Run Results Viewer、ALM/QC 用 QuickTest アドインのプログラム・ユーザ・インタフェースをローカル言語で表示できます。ユーザ・インタフェース・パックのインストールは、<言語> **ユーザ・インタフェース・パック** CD-ROM から行います。

また、ユーザ・インタフェース・パックのインストールによって、Functional Testing Concurrent License Server のローカライズされたバージョンもインストールできます。

本項の内容

- ▶ 「QuickTest Professional ユーザ・インタフェース・パックをインストールするための前提条件」(59ページ)
- ▶ 「QuickTest Professional ユーザ・インタフェース・パックのインストール」(60ページ)

### QuickTest Professional ユーザ・インタフェース・パックをインストールするための前提条件

- ▶ ユーザ・インタフェース・パックをインストールする前に、QuickTest Professional がインストールされている必要があります。詳細については、「QuickTest Professional のインストール」(22ページ)を参照してください。
- ▶ ALM/QC 用 QuickTest アドインのユーザ・インタフェース・パックをインストールする場合、ALM/QC 用 QuickTest アドインがインストールされている必要があります。詳細については、「[QuickTest Professional セットアップ] ウィンドウのオプション」(45ページ)を参照してください。

---

**注：**Functional Testing Concurrent License Server (<言語> Edition) をインストールする場合、まず 英語版の Functional Testing Concurrent License Server をインストールする必要があります。

---

## QuickTest Professional ユーザ・インタフェース・パックのインストール

以降では、QuickTest Professional、Run Results Viewer、ALM/QC 用 QuickTest アドインのユーザ・インタフェース・パックをインストールする方法と、ローカライズされた Functional Testing Concurrent License Server をインストールする方法について説明します。

**ユーザ・インタフェース・パックをインストールするには、次の手順で行います。**

- 1 前提条件が満たされていることを確認します。詳細については、「QuickTest Professional ユーザ・インタフェース・パックをインストールするための前提条件」(59ページ)を参照してください。
- 2 CD-ROM ドライブに<言語>ユーザ・インタフェース・パック CD を挿入します。  
[QuickTest Professional <言語> User Interface Pack のセットアップ] ウィンドウが開きます。

---

**注：**CD-ROM ドライブがネットワーク・コンピュータ上にある場合、ネットワーク・ドライブを割り当て、割り当てられたネットワーク・パスのルート・フォルダに移動して、**setup.exe** をダブルクリックします。

---

- 3 メインの[QuickTest Professional <言語> User Interface Pack セットアップ] ウィンドウで、次の操作を実行します。
  - ▶ [QuickTest Professional User Interface Pack セットアップ] リンクをクリックし、画面の指示に従います。  
<言語>ユーザ・インタフェース・パックが<QuickTest Professional インストール・フォルダ>にインストールされます。
  - ▶ [Run Results Viewer User Interface Pack セットアップ] リンクをクリックし、画面の指示に従います。  
<言語>ユーザ・インタフェース・パックが<Run Results Viewer インストール・フォルダ>にインストールされます。
  - ▶ [QuickTest Add-in for ALM/QC User Interface Pack セットアップ] リンクをクリックし、画面の指示に従います。  
<言語> User Interface Pack が<ALM/QC 用 QuickTest アドインのインストール・フォルダ>にインストールされます。

- ▶ [ **Functional Testing License Server のセットアップ ( <言語> 版)** ] リンクをクリックし、画面の指示に従います。

**Functional Testing License Server ( <言語> 版)** が  
< **Functional Testing License Server のインストール・フォルダ** > にインストールされます。

## QuickTest のインストールに関するトラブルシューティングと制限事項

本項では、QuickTest のインストールに関するトラブルシューティングと制限事項について説明します。

Windows Vista , Windows 7 , Windows Server 2008 , Windows Server 2008 R2 のセキュリティ設定によって、QuickTest Professional 関連のインストール (パッチのインストールなど) や Quality Center プロジェクトへの接続 (直接または QuickTest Professional から) が妨げられることがあります。これは、UAC ( User Account Control : ユーザ・アカウント制御 ) オプションがオンになっており、まだ Quality Center プロジェクトに接続したことがない場合に起きます (該当する場合)。

**回避策:**「 Quality Center への接続に使用するユーザ・アカウント制御設定の変更 ( Windows Vista , Windows 7 , Windows Server 2008 , Windows Server 2008 R2 )」( 44 ページ ) の説明に従って、UAC オプションを一時的にオフにします。



# 第3章

---

## QuickTest Professional ライセンスの使用方法

QuickTest Professional は、シート・ライセンス（旧ローカル・ライセンスまたはスタンドアロン・ライセンス）あるいはコンカレント・ライセンス（旧フローティング・ライセンス）を使用してインストールできます。

### 本章の内容

- ▶ QuickTest のライセンスの種類について（64 ページ）
- ▶ シート・ライセンス・キーの申請（65 ページ）
- ▶ シート・ライセンス・キーのインストール（68 ページ）
- ▶ コンカレント・ライセンスの使用（75 ページ）
- ▶ ライセンス情報の変更（80 ページ）
- ▶ コミュータ・ライセンスの使用（82 ページ）
- ▶ QuickTest ライセンスの検証（95 ページ）
- ▶ コンカレント・ライセンスに関する問題のトラブルシューティング（100 ページ）

## QuickTest のライセンスの種類について

QuickTest Professional を使用するには、有効なライセンスが必要です。ライセンスにはシートとコンカレントの2種類があります。次の表に2つのライセンス・タイプの違いをまとめています。

トピック	シート・ライセンス	コンカレント・ライセンス
概要	インストール先のコンピュータ固有のライセンスです。	ライセンス1件につきコンカレント（同時実行）ユーザを1人追加する権利が与えられます。
ライセンス・キーあたりのインストール数	QuickTest Professional のインストールごとに異なるライセンス・キーが必要です。	ネットワークにインストールできる QuickTest Professional の数に制限はありませんが、専用のコンカレント・ライセンス・サーバによって、一度に実行できる QuickTest Professional の数が制限されます。
その他の問題	<p>ライセンス・キーは一部、ロッキング・コードに基づいています。ロッキング・コードは QuickTest Professional がインストールされているコンピュータを識別するコードです。提供されるライセンス・キーはロッキング・コードが生成されたコンピュータだけで動作します。</p> <p><b>注：</b>複数の起動パーティションを持つコンピュータは、パーティションごとに異なるロッキング・コードを生成することがあります。パーティション用に異なるロッキング・コードが生成された場合には、専用のライセンス・キーを申請する必要があります。</p>	<p>UNIX ネットワークはサポートしません。</p> <p>コンカレント・ライセンス・サーバには固定 IP アドレスを割り当てることをお勧めします。</p> <p>QuickTest Professional クライアント・コンピュータには TCP/IP がインストールされている必要があります。</p> <p>コンカレント・ライセンスをネットワーク上で使用するには、サーバで UDP ポート 5093 を開く必要があります。</p>



トピック	シート・ライセンス	コンカレント・ライセンス
ライセンス・キーの入力	インストール手順の最後に、QuickTest でライセンス・キーの入力を求められます。この時点でライセンス・キーがない場合は、QuickTest を最初に開いたときにキーの入力を求められます。	QuickTest を起動するたびにコンカレント・ライセンス・サーバが同じサブネット内で検索されます。インストールされている QuickTest クライアントのためのライセンス・キーを入力する必要はありません。

必要に応じて、ライセンス情報およびライセンス検証情報の表示とコピーを行うことができます。たとえば、管理またはトラブルシューティングを目的として、ライセンス情報を取得できます。詳細については、「QuickTest ライセンスの検証」(95ページ)を参照してください。

## シート・ライセンス・キーの申請

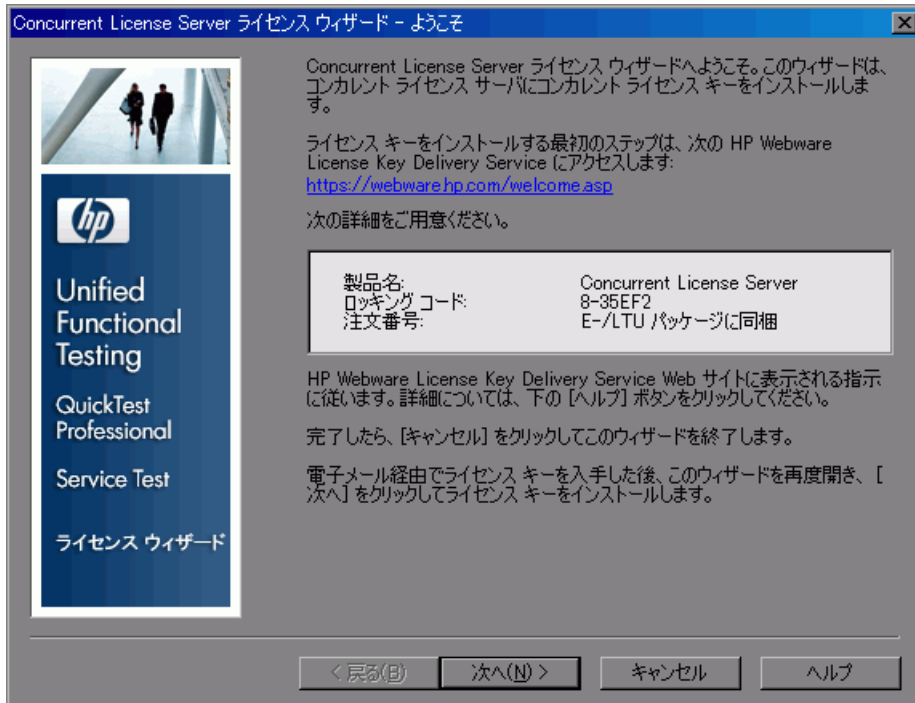
シート・ライセンスを使って初めて QuickTest Professional をインストールした場合、30日間のデモ・ライセンスが含まれています。30日を超えて QuickTest Professional を使用する場合は、QuickTest Professional 用のライセンス・キーを申請し、有効にする必要があります。

**シート・ライセンス・キーを申請するには、次の手順で行います。**

1 次の手順のいずれかを実行します。

- ▶ QuickTest Professional を起動すると表示されるライセンス警告メッセージの中で [インストール] をクリックします。
- ▶ QuickTest Professional の中から [ヘルプ] > [QuickTest Professional のバージョン情報] を選択します。[QuickTest Professional のバージョン情報] ダイアログ・ボックスが開きます。[ライセンス] をクリックします。[ライセンスのサマリ] ダイアログ・ボックスが開きます。[ライセンスの変更] をクリックします。

[ ライセンスの種類 ] 画面が開きます。[ シート ライセンス ] を選択し、[ 次へ ] をクリックします。[ はい ] をクリックして新しいライセンス・キーをインストールします。[ ようこそ ] 画面が開きます。



- お使いのコンピュータのロッキング・コードが表示されたら、これをメモします。ライセンス・キーを申請する際に必要となります。ライセンス・キーを申請するには、**HP Webware License Key Delivery Service** の [ QuickTest Professional License Installation - Welcome ] 画面のリンクをクリックします。「HP Webware License Key Delivery Service へのライセンス・キーの申請」( 67 ページ ) に示す指示に従ってください。

## HP Webware License Key Delivery Service へのライセンス・キーの申請

HP Webware License Key Delivery Service は、ライセンス・キーの申請をお手伝いします。ここで示す手順は、ライセンス・キーの申請手順の概要です。

License Key Delivery Service フォームの各フィールドの詳細については、『ESD and Webware License Management Guide』を参照してください(HP License Key Delivery Service の「Welcome」ページにある [Support] セクションで [Webware User Guide] リンクをクリックします)。

**ライセンス・キーを申請するには、次の手順を実行します。**

- 1 **HP Webware License Key Delivery Service** の [License Installation - Welcome] 画面のリンクをクリックします。[HP License Key Delivery Service Welcome] ページが表示されます。
- 2 [Generate New Licenses] をクリックします。[Generate license(s)] ページが表示されます。
- 3 LTU または ELTU パッケージで受け取った Software Entitlement Certificate から注文番号を入力します。
- 4 [Next] をクリックします。[Product Selection] ページが表示されます。
- 5 ライセンス・キーを申請する製品の横にあるチェック・ボックスを選択します。
- 6 [Next] をクリックします。[Order Product Detail(s)] ページが表示されます。
- 7 コンピュータのロッキング・コードを入力します。ロッキング・コードは [License Installation - Welcome] 画面に表示されます。
- 8 [Next] をクリックします。[Member sign-in] ページが表示されます。
- 9 Webware Licensing サービスを以前利用したことがあれば、電子メール・アドレスとパスワードを入力します。利用したことがなければ、新規ユーザとしてログインします。
- 10 [Sign-in] をクリックします。[Address information] ページが表示されます。前ユーザの場合は、Webware によって自動的にその情報がフィールドに取り込まれます。新規ユーザの場合は、画面に表示される指示に従って情報を入力します。[Address information] ページでの記入については、『ESD and Webware License Management Guide』を参照してください。
- 11 顧客のためにライセンス・キーを申請している顧客担当者の方で、手続きのコピーを顧客に送信しない場合は、[E-mail a copy of this license transaction to the license owner] チェック・ボックスの選択を解除します。

- 12 エンド・ユーザ顧客の方は、[ **I am the License owner** ] チェック・ボックスを選択してください。[ **License owner (End-user) information** ] セクションが無効になります。
- 13 顧客のためにライセンス・キーを申請している顧客担当者の方は、[ **I am the License owner** ] チェック・ボックスの選択を解除してください。[ **License owner (End-User) information** ] セクションで要求される情報をすべて入力してください。
- 14 [ **Next** ] をクリックします。[ **License/Password** ] ページが表示されます。**Session ID** をメモしてから、[ **Main Menu** ] をクリックして「Welcome」ページに戻ります。永久パスワード証明書は、ライセンス・キーと一緒に指定したアドレスに電子メールで送付されます。
- 15 [ **Cancel** ] をクリックして、永久パスワード証明書が電子メールで届くまで待機してください。ライセンス・キーが届いたら、「シート・ライセンス・キーのインストール」(68ページ)の手順を実行します。

## シート・ライセンス・キーのインストール

[ **ライセンス キー** ] 画面では、HP から受け取ったライセンス・キーを入力します。ライセンス・キーは、永久パスワード証明書を含む電子メールに添付されている **.dat** ファイルに含まれています。

---

### 注意:

- ▶ ライセンス・キーをインストールするには、管理者権限が必要です。
  - ▶ シート・ライセンス・キーをインストールした後は、コンピュータの日付や時刻を変更しないでください。これらの変更を行うと、**クロック不正変更**によってライセンス情報がロックされ、ライセンスを使用できません。
-

シート・ライセンス・キーをインストールするには、次の手順で行います。

1 次の手順のいずれかを実行します。

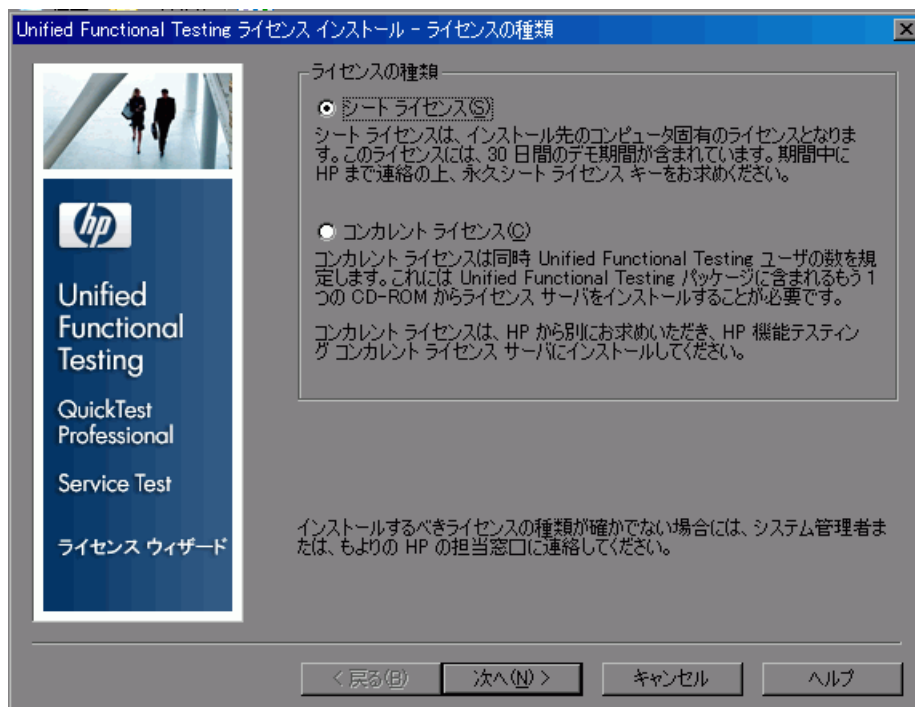
- ▶ QuickTest Professional を起動すると表示される警告メッセージの中で [ **ライセンスのインストール** ] をクリックします。
- ▶ QuickTest Professional の中から [ **ヘルプ** ] > [ **QuickTest Professional のバージョン情報** ] を選択します。[ QuickTest Professional のバージョン情報 ] ダイアログ・ボックスで [ **ライセンス** ] をクリックします。[ ライセンスのサマリ ] ダイアログ・ボックスで [ **ライセンスの変更** ] をクリックします。

---

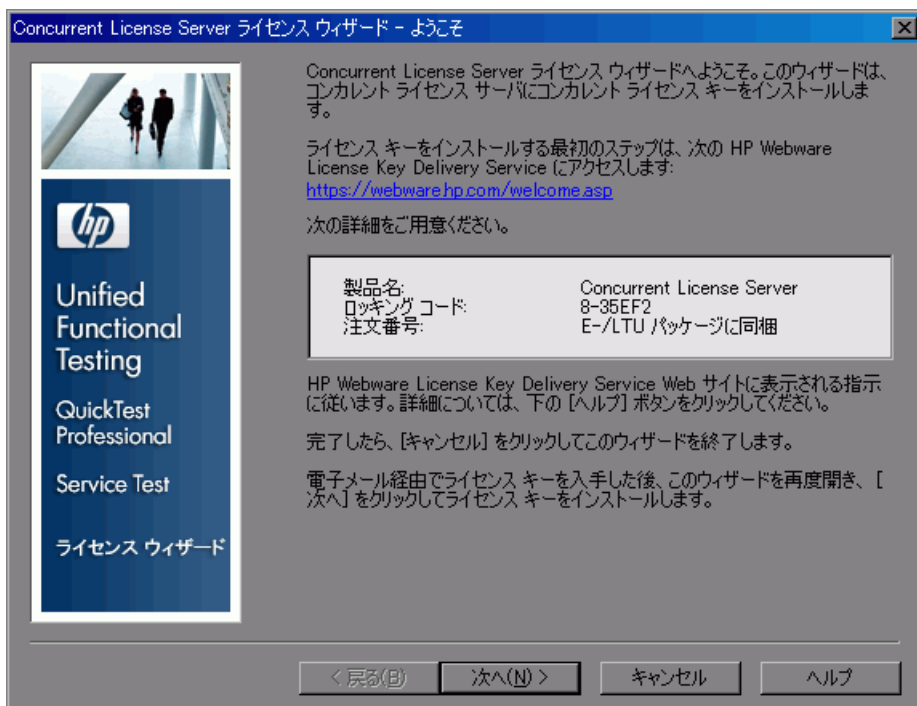
**注：**QuickTest のインストールの一環として、シート・ライセンスを有効化できます。最後のインストール画面で [ **完了** ] をクリックすると、次に説明するように、[ QuickTest Professional ライセンスインストール - ようこそ ] 画面が開きます。

---

[ ライセンスの種類 ] 画面が開きます。

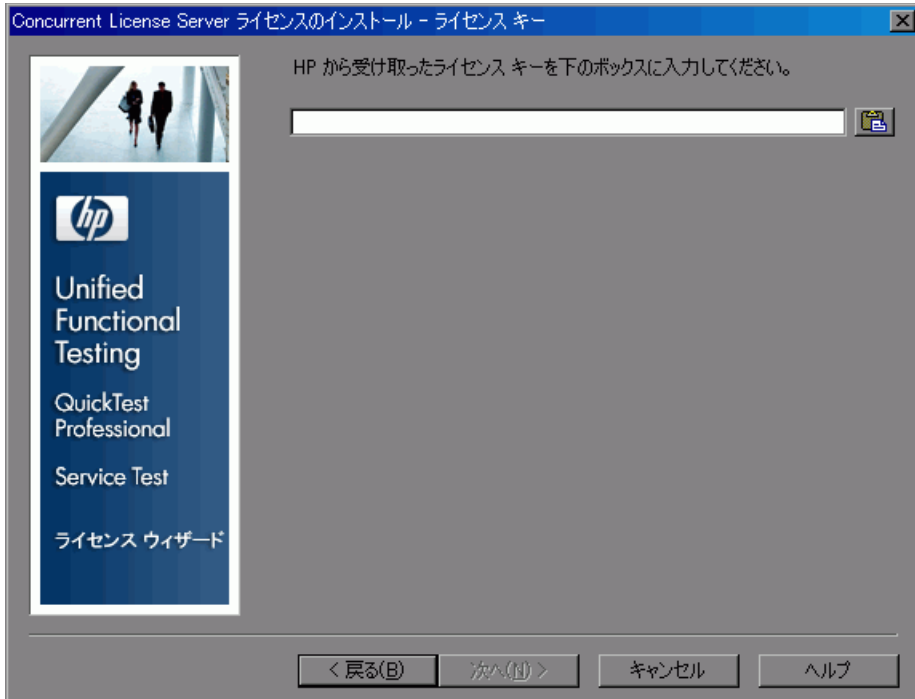


- 2 [シート ライセンス] を選択し, [次へ] をクリックします。確認ボックスで, [はい] をクリックして新しいライセンス・キーをインストールします。[ようこそ] 画面が開きます。



**ヒント:** この画面に表示されているロッキング・コードと, HP にライセンス・キーを要求したときに送ったロッキング・コードが一致していることを確認します。

- 3 [次へ] をクリックしてライセンスのインストールを開始します。[ライセンス キー] 画面が開きます。



**注：**

- ▶ ライセンス・キーは、HP ソフトウェア・サポートへのライセンス申請に使用したロッキング・コードを持つコンピュータでのみ有効です。
- ▶ 複数の起動用パーティションを持つコンピュータは、パーティションごとに異なるロッキング・コードを生成することがあります。パーティション用に異なるロッキング・コードが生成された場合には、専用のライセンス・キーを申請する必要があります。

- 4 永久パスワード証明書の含まれる電子メールに添付されている .dat ファイルをテキスト・エディタで開きます。ライセンス・キーは永久パスワード証明書にも含まれています。

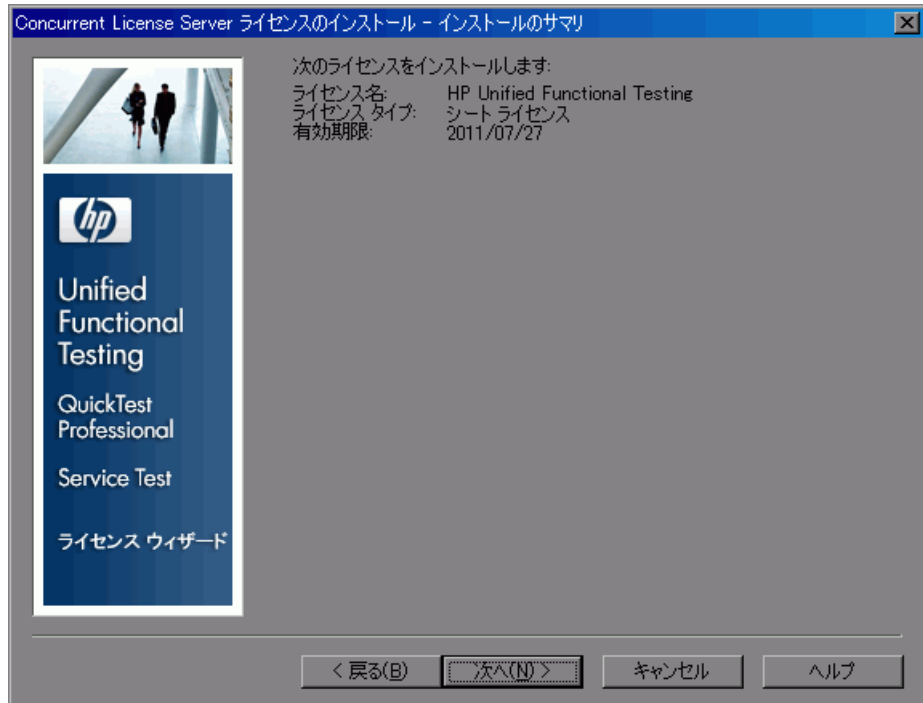


- 5 .dat ファイルから (# 文字の有無にかかわらず) ライセンス・キーを選択して、クリップボードにコピーします。

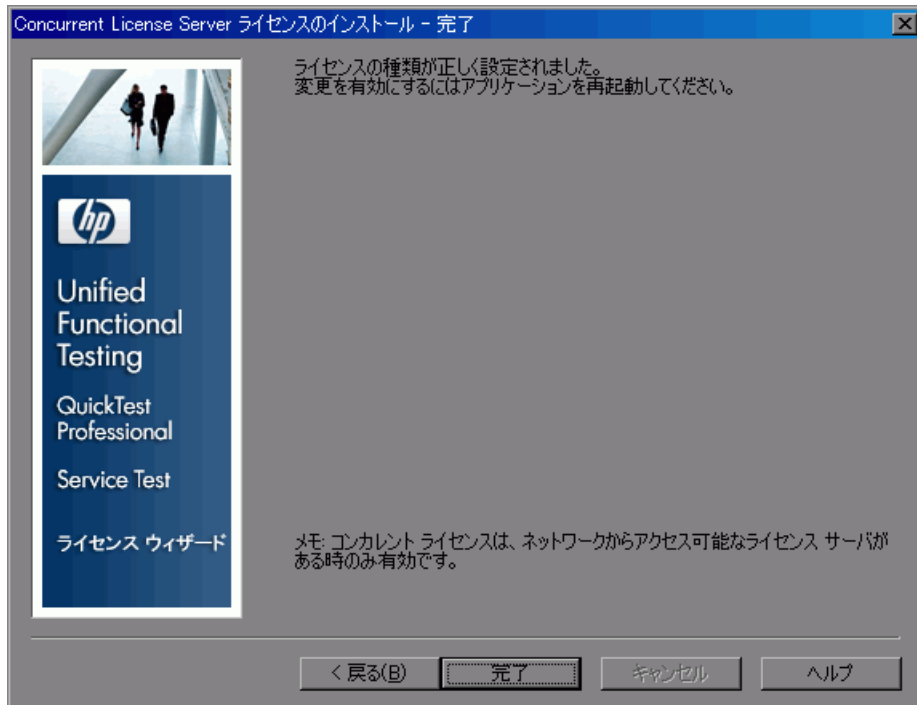


- 6 [クリップボードから貼り付ける] ボタンをクリックして、キーを [ライセンスインストール - ライセンスキー] 画面に貼り付けます。

- 7 [次へ] をクリックします。[インストールのサマリ] 画面が開きます。



- 8 情報が正しいことを確認し、[ 次へ ] をクリックします。[ 完了 ] 画面が開きます。



有効なライセンス・キーを入力すると、[ 完了 ] 画面でライセンス・キーが正しくインストールされたことが確認できます。

ライセンスを正常にインストールできなかった場合は、その原因を示すメッセージが表示されます。たとえば、以前にシート・ライセンスがコンピュータにインストールされていた場合、再度同じライセンス・キーを使用してシート・ライセンスをインストールしようとしても、ライセンスのインストールは成功しません。ライセンスを正しくインストールできなかった場合は、[ サポートに送信 ] ボタンが表示されます。[ サポートに送信 ] をクリックすると、ライセンス情報を記入した電子メールを作成して、最寄りの HP ソフトウェア・サポートに送信できます。HP ソフトウェア・サポートによる支援が受けられるように、必ず必須情報を電子メールに記入してください。

---

**ヒント**：別のライセンスをインストールする場合は、[ **ライセンスをもう1つインストールする** ] チェック・ボックスを選択して [ **完了** ] をクリックし、71 ページの手順 2 を行ってください。

---

- 9 別の QuickTest ライセンスをインストールしない場合は、[ **完了** ] をクリックし、ライセンスの有効化手順を完了してウィザードを終了します。

## コンカレント・ライセンスの使用

利用可能なライセンスを提供するアクセス可能なコンカレント・ライセンス・サーバがネットワーク上にあれば、コンカレント・ライセンス・サーバに接続できます。これにより、シート・ライセンスの代わりにコンカレント・ライセンスを使用できます。コンカレント・ライセンス・サーバを使った作業と、サポートしているバージョンの詳細については、『HP Functional Testing Concurrent License Server インストール・ガイド』を参照してください。

---

**注**：QuickTest のインストール手順の実行中にコンカレント・ライセンス・サーバを指定することもできます。詳細については、「QuickTest Professional のインストール」(22 ページ)を参照してください。

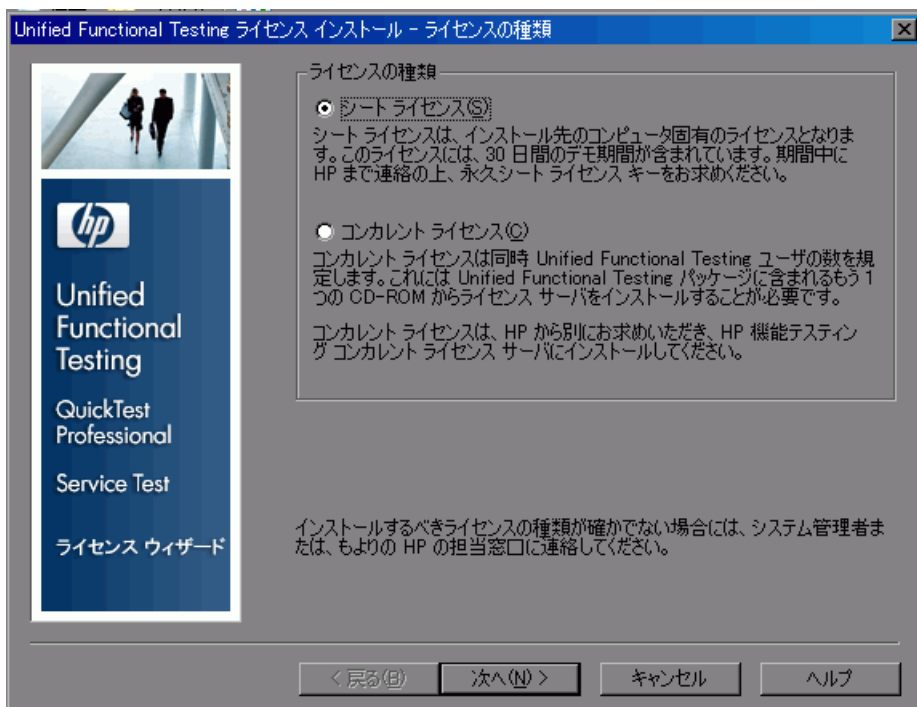
---

**コンカレント・ライセンスを使用するには、次の手順で行います。**

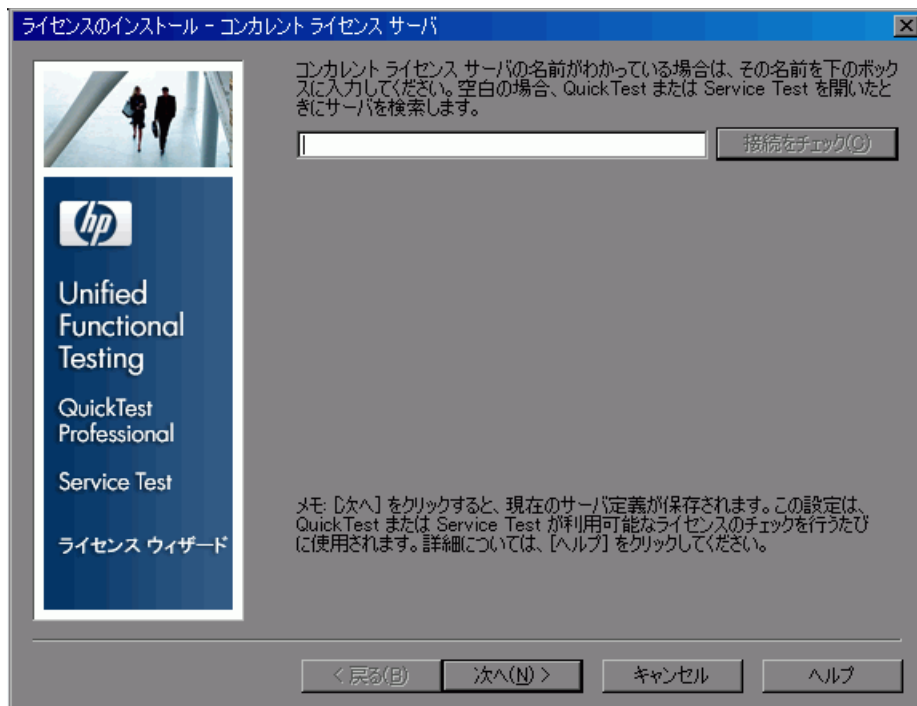
1 次のいずれかを実行します。

- ▶ QuickTest Professional を起動すると表示されるライセンス警告メッセージの中で [ **インストール** ] をクリックします。
- ▶ [ **スタート** ] > [ **プログラム** ] > [ **HP QuickTest Professional** ] > [ **Tools** ] > [ **Additional Installation Requirements** ] を選択し [ **インストール** ] を選択します。
- ▶ QuickTest Professional の中から [ **ヘルプ** ] > [ **QuickTest Professional のバージョン情報** ] を選択します。[ QuickTest Professional のバージョン情報 ] ダイアログ・ボックスが開きます。[ **ライセンス** ] をクリックします。[ **ライセンスのサマリ** ] ダイアログ・ボックスが開きます。[ **ライセンスの変更** ] をクリックします。

[ ライセンスの種類 ] 画面が開きます。



- 2 [ **コンカレント ライセンス** ] を選択し、[ **次へ** ] をクリックします。[ **コンカレント ライセンス サーバ** ] 画面が開きます。



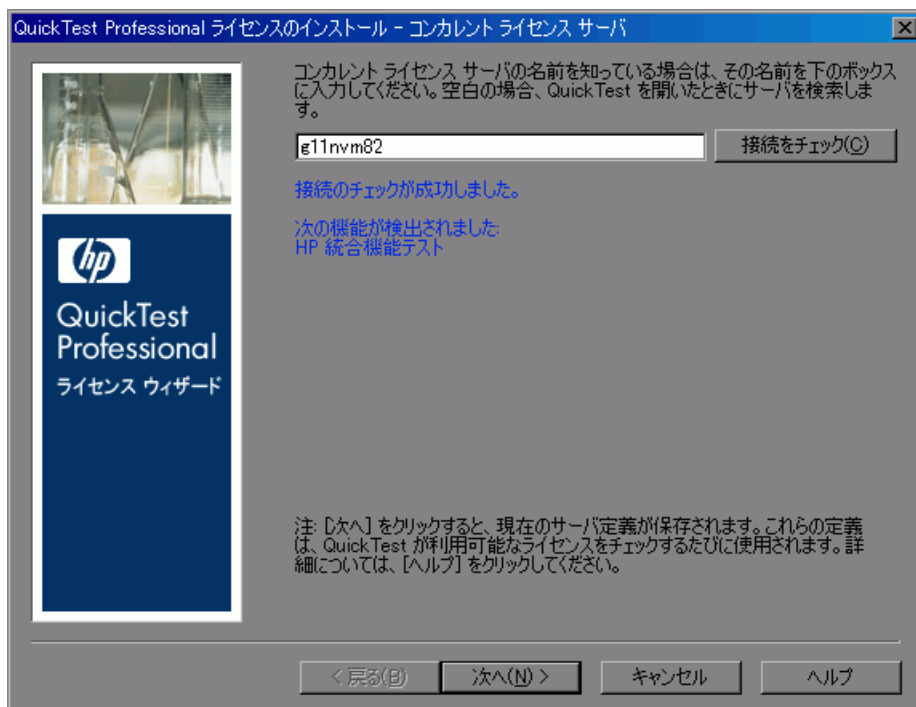
- 3 エディット・ボックスに、接続先となるコンカレント・ライセンス・サーバの名前または IP アドレスを入力するか、または、ボックスを空のままにして、ローカル・ネットワーク上で使用可能なサーバを検索するよう QuickTest に指示します。

---

**ヒント:** ライセンス・ウィザードを使用してコンカレント・ライセンスを有効化してサーバ名を 1 つ指定すると、LSFORCEHOST ユーザ変数が指定したコンカレント・ライセンス・サーバに自動的に定義されます。コンカレント・ライセンス・サーバを変更するには、ライセンス・ウィザードを実行するか、あるいは LSHOST または LSFORCEHOST ユーザ変数を設定します。詳細については、『HP Functional Testing Concurrent License Server インストール・ガイド』を参照してください。

---

- 4 [ **接続をチェック** ] をクリックします。QuickTest からコンカレント・ライセンス・サーバに接続できた場合は、成功メッセージが表示されます。



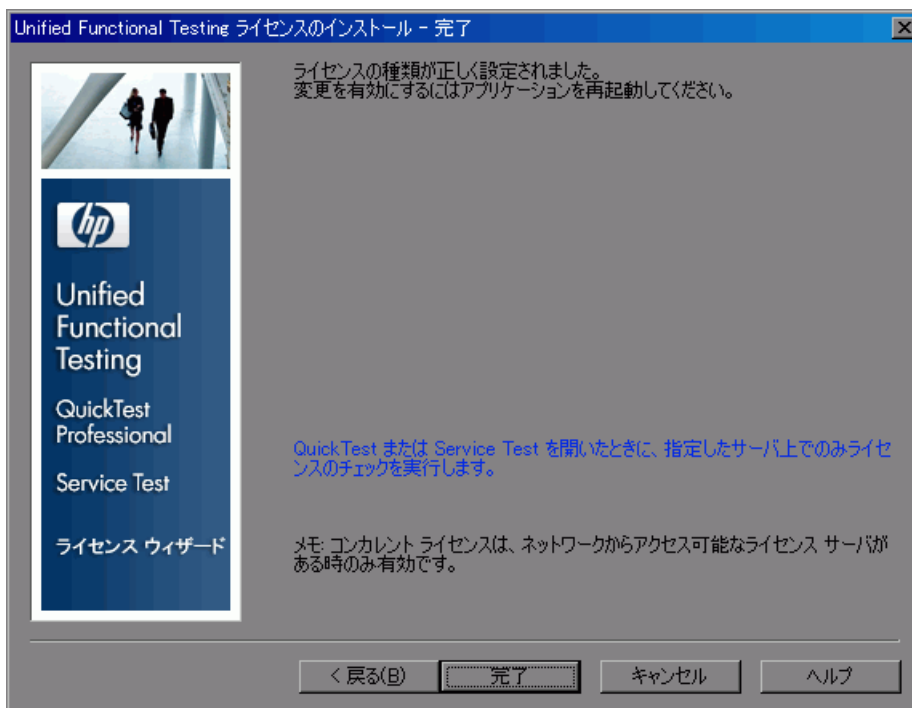
---

注：コンカレント・ライセンス・サーバに接続できなかった場合は、[ コンカレントライセンス サーバ ] 画面を通じて通知されます。

---

**ヒント**：現在は使用できないものの、後で使用できる予定のコンカレント・ライセンス・サーバの名前を指定する場合は、そのコンカレント・ライセンス・サーバの名前をエディット・ボックスに入力できます。[コンカレント ライセンス サーバ]画面では、指定したサーバが接続に使用できないことが通知されますが、次回 QuickTest を開いたときに、指定したサーバの検索が QuickTest によって試みられます。

- 5 [次へ]をクリックします。コンカレント・ライセンスの有効化が正常に行われたことが通知されます。



- 6 [完了]をクリックして、ウィザードを終了します。QuickTest Professional が開いている場合、コンカレント・ライセンス・サーバを使用するためには QuickTest Professional をいったん終了して再度開始する必要があります。

## ライセンス情報の変更

QuickTest Professional のインストール後は、ライセンス・キーの変更やライセンスの種類の変更をいつでも行えます。新しいライセンス・キーの申請の詳細については、「シート・ライセンス・キーの申請」(65ページ)を参照してください。

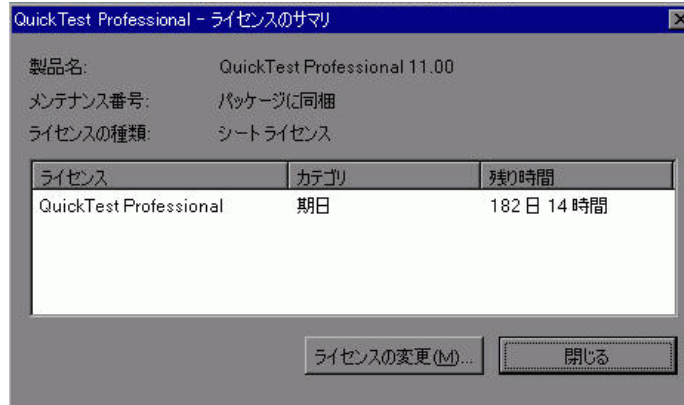
---

**注：**インストールされている QuickTest のライセンスの種類をシートからコンカレントへ、およびその逆へ変更するには、管理者権限でログインしている必要があります。

---

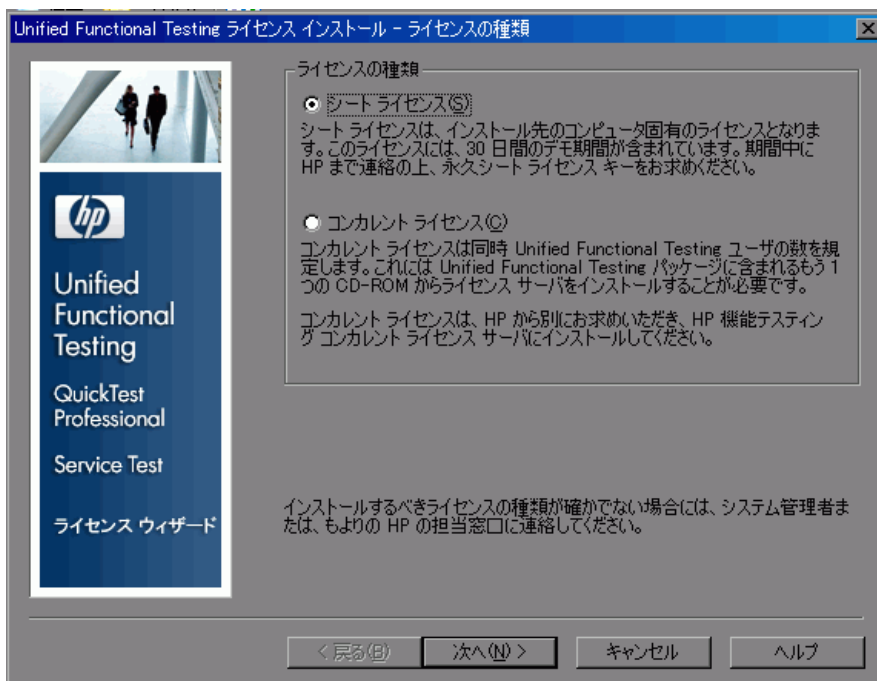
ライセンス情報を変更するには、次の手順で行います。

- 1 QuickTest Professional を開きます。
- 2 [ヘルプ] > [QuickTest Professional のバージョン情報] をクリックします。  
[QuickTest Professional のバージョン情報] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 3 [ライセンス] をクリックします。[ライセンスのサマリ] ダイアログ・ボックスが開きます。





4 [ **ライセンスの変更** ] をクリックします。[ **ライセンスの種類** ] 画面が開きます。



- ▶ ライセンスの種類をコンカレントからシートに変更するには [ **シートライセンス** ] を選択し、[ **次へ** ] をクリックします。確認ボックスが開きます。
- ▶ すでに有効なシート・ライセンス・キーがインストールされている場合は、[ **いいえ** ] をクリックして、選択したライセンスの種類を保存します。
- ▶ コミュータ・ライセンスをチェック・アウトして、それを今すぐに使用する場合は、[ **いいえ** ] をクリックします。
- ▶ シート・ライセンス・キーがインストールされていない場合は、[ **はい** ] をクリックします。

[ **よろこ** ] 画面が開きます。「シート・ライセンス・キーのインストール」の手順 4 から 9 に従ってください。

- ▶ ライセンスの種類をシートからコンカレントに変更するには、[ **コンカレント ライセンス** ] を選択し、[ **次へ** ] をクリックします。「コンカレント・ライセンスを使った作業」の手順 2 から 6 に従ってください。

---

**注：**コンカレント・ライセンスを使うには、コンカレント・ライセンス・サーバがネットワーク上にインストールされていてネットワークからアクセスでき、利用可能なコンカレント・ライセンスがある必要があります。コンカレント・ライセンス・サーバのインストールの詳細については、『HP Functional Testing Concurrent License Server インストール・ガイド』を参照してください。

---

- 5 [ **閉じる** ] をクリックして [ QuickTest Professional のバージョン情報 ] ダイアログ・ボックスを閉じます。
- 6 QuickTest Professional を再起動し、変更を適用します。

## コミュータ・ライセンスの使用

コンカレント・ライセンスで QuickTest を使用しているものの、出張などで自分のコンピュータをネットワークに接続できない場合は、コミュータ・ライセンスをインストールできます。コミュータ・ライセンスはコンカレント・ライセンスを所有している会社でのみ使用できます（シート・ライセンスでは使用できません）。

たとえば、出先からラップトップ・コンピュータで QuickTest を使用するとします。出先で使えるように、QuickTest ライセンスをコンカレント・ライセンス・サーバからチェック・アウトし、出先から戻ったときにライセンスをチェック・インして戻すことができます。コミュータ・ライセンスは、必要に応じて最長で 180 日間有効です。

---

**ヒント：**コンカレント・ライセンスを取得済みでコンカレント・ライセンス・サーバから遠くにいる場合、ネットワークの混雑時にコミュータ・ライセンスも使用することができます。

---

詳細については、後述の「コミュータ・ライセンスのチェック・アウト」および「コミュータ・ライセンスのチェックイン」（86 ページ）を参照してください。

---

**注：** コミュータ・ライセンスをインストールするには、ライセンスを使用するコンピュータの管理者権限が必要です。

---

さらに、ネットワークとの接続を切る（外出する）前にライセンスをチェック・アウトできなかった場合や、チェック・アウトしたライセンスの有効期限が出先で切れてしまった場合には、ローカル・ネットワーク・ユーザに依頼してコンピュータ・ライセンスをチェック・アウトし、出先に送ってもらうこともできます。詳細については、「リモートでのコンピュータ・ライセンスの取得」（87ページ）を参照してください。

---

**注：** HP Functional Testing Concurrent License バージョン 7.6 より前からアップグレードした場合は、コンピュータ・ライセンス機能を有効にするために新しいサーバ・ライセンス・キーを申請する必要があります。詳細については、HP ソフトウェア・サポートまたは最寄りの代理店にお問い合わせください。

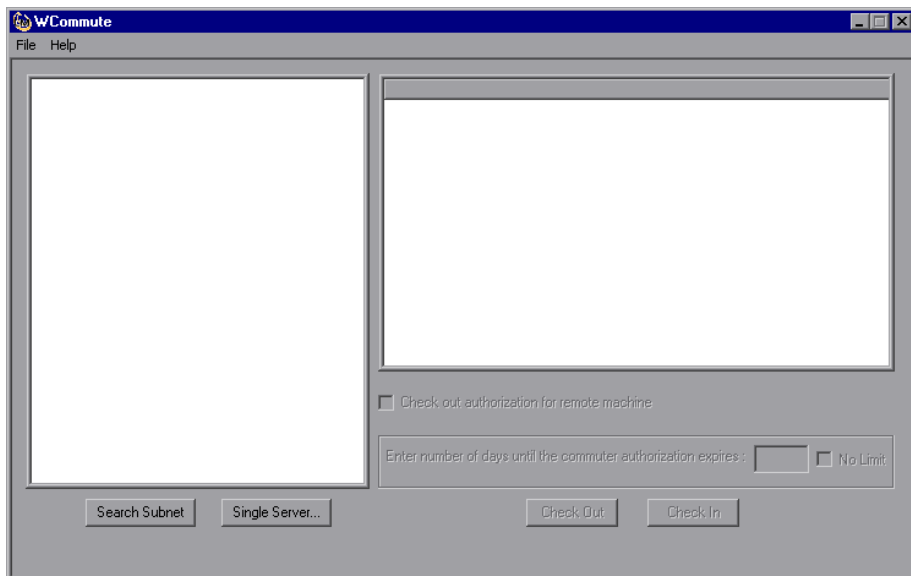
---

## コミュータ・ライセンスのチェック・アウト

コミュータ・ライセンスをチェック・アウトする前に、コミュータ・ライセンスをインストールするコンピュータ(ラップトップなど)に QuickTest がインストール済みであること、そのコンピュータがネットワークに接続されていること、利用可能な QuickTest ライセンスを提供しているコンカレント・ライセンス・サーバにアクセスできることを確認します。ライセンスをチェック・アウトした後は、ネットワークからコンピュータを切断できません。

コミュータ・ライセンスをチェック・アウトするには、次の手順で行います。

- 1 < QuickTest のインストール・フォルダ > %bin にある WCommute.exe ファイルを実行します。[ WCommute ] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 2 サブネット内にあるすべてのコンカレント・ライセンス・サーバ上の利用可能なコミュータ・ライセンスを確認するには、[ **Search Subnet** ] をクリックします。特定のコンカレント・ライセンス・サーバを指定する場合や、サブネット外のコンカレント・ライセンス・サーバを選択する場合は、[ **Single Server** ] をクリックします。
  - ▶ [ **Search Subnet** ] をクリックすると、WCommute ユーティリティは、コミュータ・ライセンスをサポートしているコンカレント・ライセンス・サーバをサブネットの中で探し、それらを [ WCommute ] ダイアログ・ボックスに表示します。この処理には数分かかる場合があります。

- ▶ [ **Single Server** ] をクリックすると、コンカレント・ライセンス・サーバを指定するためのダイアログ・ボックスが開きます。コンカレント・ライセンス・サーバ・コンピュータのホスト名、IP アドレス、または IPX アドレスを入力し、[ **OK** ] をクリックします。指定したコンカレント・ライセンス・サーバが検索され、[ **WCommute** ] ダイアログ・ボックスに表示されます。

コンカレント・ライセンス・サーバごとに、使用可能なコンピュータ・ライセンスのリストが表示されます。コンピュータ・ライセンスの横の赤いチェック・マークは、使用しているコンピュータに対してそのライセンスがすでにチェック・アウトされていることを表しています。同じアプリケーション用の複数のライセンスを、同じコンピュータにチェック・アウトすることはできません。ライセンスの詳細を表示するには、ダイアログ・ボックスの右の表示枠にあるライセンスをクリックします。

- 3 チェック・アウトするライセンスを選択します。
- 4 [ **Enter number of days until the commuter authorization expires** ] ボックスで、ライセンスをチェック・アウトする最長日数を指定します。最長で 180 日が可能です。

---

#### 注：

- ▶ QuickTest Professional は、コンカレント・ライセンス・サーバとして、Sentinel RMS License Manager バージョン 8.3.0 をサポートしています。コンカレント・ライセンスを持つ QuickTest Professional をアップグレードする場合、コンカレント・ライセンス・サーバもアップグレードする必要があります。
- ▶ ライセンスをチェック・アウトすると、他のユーザが使用できるライセンスの数が少なくなります。そのため、最低限の日数を指定するようにします。

- 
- 5 [ **Check Out** ] をクリックします。選択したライセンスが、使用しているコンピュータにローカルに保存されます。
  - 6 チェック・アウトした新しいライセンスを使用するには、QuickTest を開き、ライセンスの種類をコンカレントからシートに変更します。コンピュータ・ライセンスを使用するには、ライセンスの種類を変更後に表示される確認メッセージで [ **いいえ** ] をクリックします。詳細については、「ライセンス情報の変更」(80 ページ) を参照してください。

## コンピュータ・ライセンスのチェックイン

コンピュータ・ライセンスを使い終わったら、使用しているコンピュータから、チェック・アウトしたコンカレント・ライセンス・サーバにライセンスをチェック・インする必要があります。これにより、他のユーザがそのライセンスを使用できるようになります。

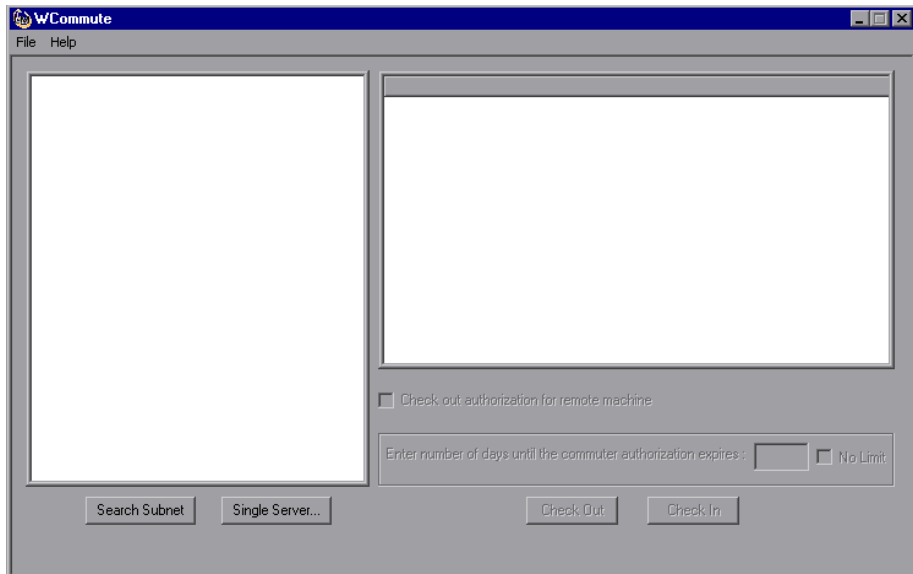
---

**注：**ライセンスが期限切れになっている場合、チェック・インする必要はありません。期限切れになったライセンスは使用できなくなります。使用しているコンピュータがコンカレント・ライセンス・サーバ・ネットワークに接続していなくても、ライセンスは自動的にコンカレント・ライセンス・サーバに戻されます。

---

コンピュータ・ライセンスをチェック・インするには、次の手順で行います。

- 1 < QuickTest のインストール・フォルダ > %bin にある WCommute.exe ファイルを実行します。[ WCommute ] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 2 84ページの「コンピュータ・ライセンスのチェック・アウト」の手順 2 に従って、チェック・インするコンピュータ・ライセンスに対応するコンカレント・ライセンス・サーバを検索します。ライセンスは、チェック・アウトしたのと同じコンカレント・ライセンス・サーバにチェック・インする必要があります。

### 3 チェック・アウトしているライセンスを選択します。

---

**ヒント:** チェック・アウトしているライセンスは、赤いチェック・マークで示されています。

---

### 4 [ Check In ] をクリックします。ライセンスがコンカレント・ライセンス・サーバに戻され、他のユーザが使用できるようになります。

---

**注:** QuickTest を再び使用するには、使用に先立ってライセンスの種類をシートからコンカレントに変更する必要があります。詳細については、「ライセンス情報の変更」(80ページ)を参照してください。

---

## リモートでのコンピュータ・ライセンスの取得

ローカル・ネットワークのユーザに QuickTest コミュータ・ライセンスをローカルにチェック・アウトしてもらい、それを送信してもらってリモート・コンピュータにインストールすることができます。この機能は、現在コンカレント・ライセンス・サーバ・ネットワークに接続していない場合に便利です。たとえば、長期出張でオフィスを空けるものの、QuickTest を使用する必要があることが考えられます。

**コンピュータ・ライセンスをリモートで取得するには、次の手順で行います。**

- 1 WRCcommute ユーティリティを実行し、使用しているコンピュータのコンピュータ・ロッキング・コードを生成します。そして、そのコンピュータ・ロッキング・コードを、コンカレント・ライセンス・サーバにアクセス可能なローカル・ユーザに送信します。詳細については、「手順1: リモート・コンピュータのロッキング・コードの生成」(88ページ)を参照してください。
- 2 ローカル・ユーザに依頼して、WRCcommute ユーティリティを実行して(そのときに、生成したコンピュータ・ロッキング・コードを入力してもらいます)リモート・コンピュータ・ライセンスをチェック・アウトしてもらった後、それを送信してもらいます。詳細については、「手順2: リモート・コンピュータのためのコンピュータ・ライセンスのチェック・アウト」(90ページ)を参照してください。
- 3 WRCcommute ユーティリティを実行し、リモート・コンピュータ・ライセンスをコンピュータにインストールします。詳細については、「手順3: リモート・コンピュータでのコンピュータ・ライセンスのインストール」(93ページ)を参照してください。

- QuickTest を開き、ライセンスの種類をコンカレントからシートに変更します。コンピュータ・ライセンスを使用するには、ライセンスの種類を変更後に表示される確認メッセージで[いいえ]をクリックします。詳細については、「ライセンス情報の変更」(80ページ)を参照してください。

### 手順 1：リモート・コンピュータのロックング・コードの生成

コンピュータ・ライセンスをリモートで取得する最初の手順は、使用しているコンピュータで WRCommute ユーティリティを使用してロックング・コードを生成し、コンカレント・ライセンス・サーバにアクセスできるネットワーク・ユーザに電子メールでそのコードを転送することです。

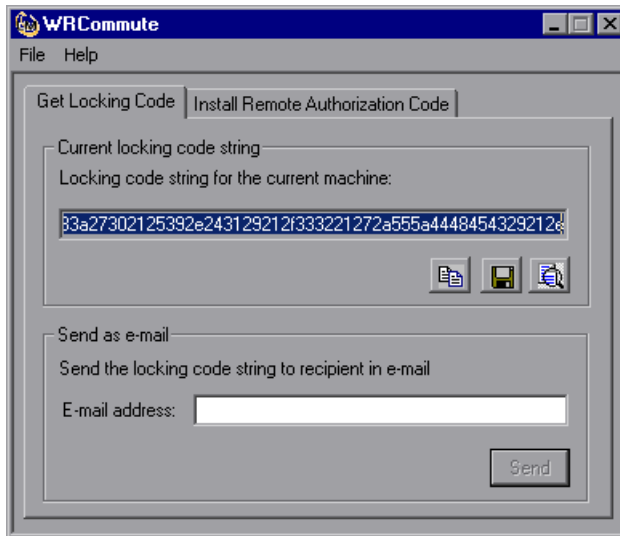
---

**注：**コンピュータ・ライセンスのロックに使用するリモート・コンピュータ・ロックング・コードは、ECHOID ユーティリティで表示されるロックング・コードと同じではありません。コンピュータ・ライセンスのロックング・コードを取得するには、WRCommute ユーティリティを使用する必要があります。

---

リモート・コンピュータでロックング・コードを生成するには、次の手順で行います。

- < QuickTest のインストール・フォルダ > \bin にある WRCommute.exe ファイルを実行します。[ WRCommute ] ダイアログ・ボックスが開きます。





[ **Locking code string for the current machine** ] ボックスには、QuickTest ライセンスが含まれているコンカレント・ライセンス・サーバにアクセスできるネットワーク・ユーザに電子メールで送信する必要があるロッキング・コードが示されます。

- 2 次に示すいずれかの方法で、ローカル・ネットワーク・ユーザにロッキング・コードを送信します。



- ▶ ロッキング・コードの文字列を選択し、[ **Copy to clipboard** ] ボタンをクリックして、その文字列を Windows のクリップボードにコピーします。次に電子メール・プログラムを開き、新しい電子メール・メッセージに文字列を貼り付けて、ローカル・ネットワーク・ユーザに送信します。



- ▶ [ **Save lock code string to file** ] ボタンをクリックし、ロッキング・コードをファイルに保存します。ファイルの名前と場所を指定し、新しい電子メール・メッセージにそのファイルを添付して、ローカル・ネットワーク・ユーザに送信します。



- ▶ [ **Display locking code string** ] ボタンをクリックし、ロッキング・コード全体を別のダイアログ・ボックスに表示します。そしてロッキング・コード文字列を範囲選択して右クリックし、[ **コピー** ] を選択して、Windows クリップボードにコピーします。次に電子メール・プログラムを開き、新しい電子メール・メッセージに文字列を貼り付けて、ローカル・ネットワーク・ユーザに送信します。

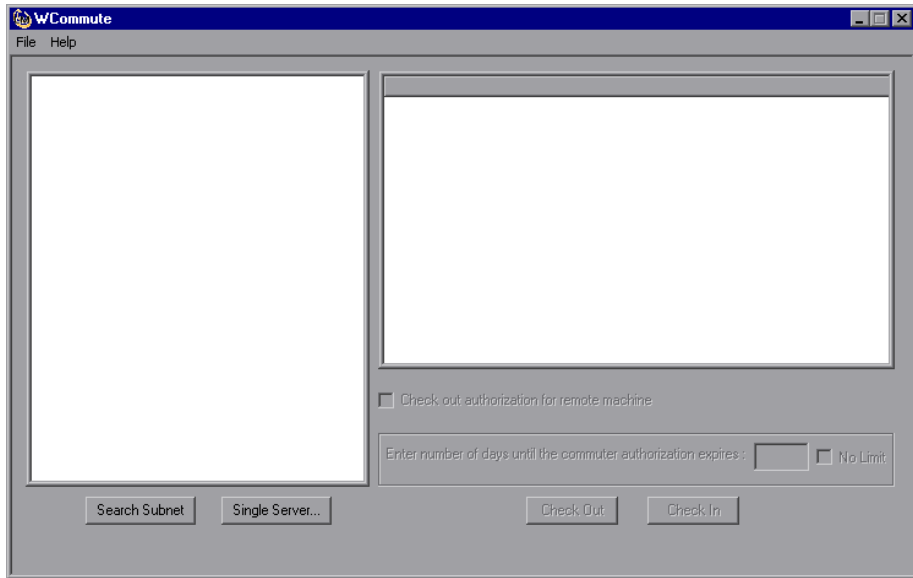
- ▶ [ **E-mail address** ] ボックスにローカル・ネットワーク・ユーザの電子メール・アドレスを入力し、[ **Send** ] をクリックします。このオプションは、電子メール・クライアントとして Microsoft Outlook Express が設定されている場合にのみサポートされます。

## 手順 2：リモート・コンピュータのためのコミュータ・ライセンスの チェック・アウト

ロッキング・コードを受信したローカル・ネットワーク・ユーザは、ライセンスをチェック・アウトし、電子メールでリモート・ユーザに転送できます。そのためには、ユーザは自分のコンピュータに QuickTest をインストールしておく必要があります。また、利用可能な QuickTest ライセンスを提供しているコンカレント・ライセンス・サーバにアクセスできる必要もあります。

リモート・コンピュータ用のコミュータ・ライセンスをチェック・アウトするには、次の手順で行います。

- 1 < QuickTest のインストール・フォルダ > \bin にある WCommute.exe ファイルを実行します。[ WCommute ] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 2 84ページの「コミュータ・ライセンスのチェック・アウト」の手順 2 に従って、チェック・アウトするリモート・コミュータ・ライセンスからコンカレント・ライセンス・サーバを検索します。

コンカレント・ライセンス・サーバごとに、チェック・アウト可能なコミュータ・ライセンスのリストが表示されます。

- 3 チェック・アウトするライセンスを選択します。
- 4 [ Check out authorization for remote machine ] チェック・ボックスを選択します。

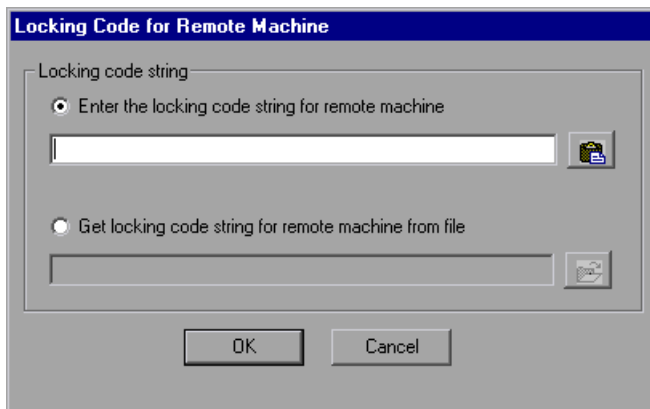
- 5 [ Enter number of days until the commuter authorization expires ] ボックスで、ライセンスをチェック・アウトする日数を指定します。最長で 180 日が可能です。

---

**注：**

- ▶ QuickTest Professional は、コンカレント・ライセンス・サーバとして、Sentinel RMS License Manager バージョン 8.3.0 をサポートしています。コンカレント・ライセンスを持つ QuickTest Professional をアップグレードする場合、コンカレント・ライセンス・サーバもアップグレードする必要があります。
- ▶ リモート・コンピュータのライセンスをチェック・アウトすると、チェック・インできなくなり、指定した日数だけ使用中の状態となります（ほかのユーザが利用できません）。そのため、必要な最低日数を指定するようにします。

- 
- 6 [ Check Out ] をクリックします。[ Locking Code for Remote Machine ] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 7 次に示すいずれかの方法で、リモート・ユーザからの電子メールで受け取ったロッキング・コードを入力します。

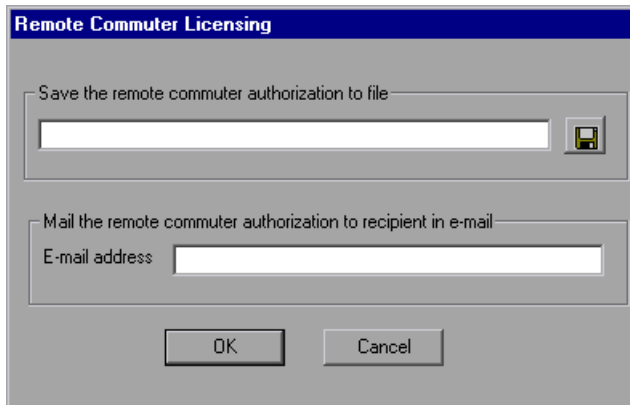


- ▶ ロッキング・コードが、受け取った電子メールの本文に記載されていた場合は、そのロッキング・コードを Windows クリップボードにコピーします。[ Locking Code for Remote Machine ] ダイアログ・ボックスで、[ **Enter the locking code string for remote machine** ] を選択し、[ **Paste from clipboard** ] ボタンをクリックします。



- ▶ ロッキング・コードが電子メールの添付ファイルとして送信されてきた場合は、その添付ファイルを保存し、[ **Get locking code string for remote machine from file** ] を選択します。[ **Load** ] ボタンをクリックします。ロッキング・コードが記載されたファイルを選択し、[ **Open** ] をクリックします。

- 8 [ **OK** ] をクリックします。[ Remote Commuter Licensing ] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 9 次のいずれかの方法で、リモート・ユーザにコミュータ・ライセンスを送信します。



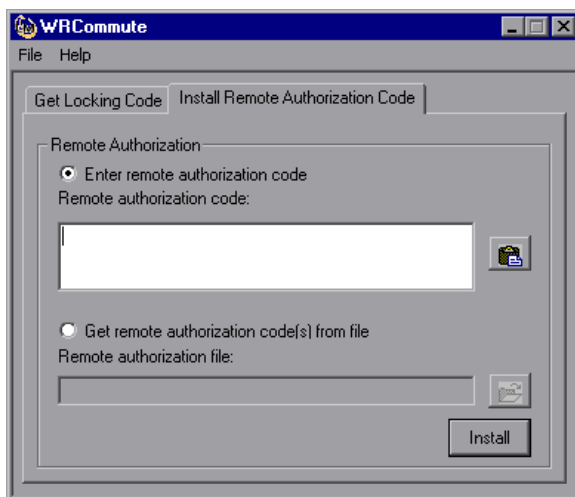
- ▶ [ **Save the commuter authorization to file** ] ボタンをクリックし、ロッキング・コードをファイルに保存します。ファイルの名前と場所を指定し、[ **Save the commuter authorization to file** ] をクリックして、[ **OK** ] をクリックします。新しい電子メール・メッセージにファイルを添付し、リモート・ユーザに送信します。
- ▶ [ **E-mail address** ] ボックスに、リモート・ユーザの電子メール・アドレスを入力します。[ **送信** ] をクリックし、[ **OK** ] をクリックします。このオプションは、電子メール・クライアントとして Microsoft Outlook Express が設定されている場合にのみサポートされます。

### 手順 3：リモート・コンピュータでのコミュタ・ライセンスのインストール

コミュタ・ライセンスをリモートで取得する最後の手順は、ネットワーク・ユーザによって送信されたライセンスをコンピュータにインストールすることです。

リモート・コンピュータにコミュタ・ライセンスをインストールするには、次の手順で行います。

- 1 コンピュータに管理者権限でログインしていることを確認します。
- 2 <QuickTest のインストール・フォルダ> %bin にある WRCcommute.exe ファイルを実行します。[ WRCcommute ] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 3 [ Install Remote Authorization Code ] タブをクリックします。



- 4 ネットワーク・ユーザが電子メールで送ってきたコムータ・ライセンスを次のようにして入力します。



- ▶ コムータ・ライセンスが、受け取った電子メールの本文に記載されていた場合は、そのコムータ・ライセンスを Windows クリップボードにコピーします。[ WRCommute ] ダイアログ・ボックスの [ Install Remote Authorization Code ] タブで、[ Enter remote authorization code ] を選択し、[ Paste from clipboard ] ボタンをクリックします。



- ▶ コムータ・ライセンスが電子メールの添付ファイルとして送信されてきた場合は、その添付ファイルを保存し、[ Get remote authorization code(s) from file ] を選択します。[ Load ] ボタンをクリックします。ロッキング・コードが記載されたファイルを選択し、[ Open ] をクリックします。

- 5 [ Install ] をクリックします。新しいライセンス・コードがコンピュータにインストールされます。

#### 手順 4：リモート・コンピュータでのライセンスの種類の変更

QuickTest を開き、ライセンスの種類をコンカレントからシートに変更します。コムータ・ライセンスを使用するには、ライセンスの種類を変更後に表示される確認メッセージで [ いいえ ] をクリックします。詳細については、「ライセンス情報の変更」(80 ページ) を参照してください。

---

**注：**リモート・コムータ・ライセンスは使い終わってもコンカレント・ライセンス・サーバにチェック・インできません。そのままリモート・コンピュータ上で期限切れになります。オフィスに戻ってネットワークに再接続したら、ライセンスの種類をシートからコンカレントに変更する必要があります。詳細については、「ライセンス情報の変更」(80 ページ) を参照してください。

---

## QuickTest ライセンスの検証

ライセンスの検証ユーティリティは、QuickTest Professional のライセンス文字列をデコードして検証します。これによって、トラブルシューティングを目的として、ライセンス情報およびライセンス検証情報を表示およびコピーできます。

ライセンスの検証ユーティリティは次の処理を実行します。

- ▶ ライセンス文字列をデコードし、ライセンスに関する重要な情報を取得します。詳細については、「ライセンス情報」(98ページ)を参照してください。
- ▶ あらかじめ定義されているチェック項目に基づいてライセンスを検証します。詳細については、「検証のチェック」(99ページ)を参照してください。

必要に応じて、デコードと検証の結果をクリップボードにコピーすることができます。詳細については、「クリップボードへのライセンス検証結果のコピー」(99ページ)を参照してください。

ライセンスのデコードと検証を行うには、次の手順で行います。

- 1 [ スタート ] > [ プログラム ] > [ HP QuickTest Professional ] > [ Tools ] > [ License Validation Utility ] を選択します。



- 2 [ ライセンス キー ] ボックスに、デコードと検証を行うライセンス・コードを入力します。すでに QuickTest コンピュータにインストールされているライセンス・コードは **lserverc** ファイルにあります。このファイルの場所は、**lserverc** 環境変数によって指定されます。



---

**ヒント:**

- ▶ ライセンス・コードを入力するときには、ライセンス・コードの末尾に # 文字が挿入されていることを確認してください。欠落している場合は、[ **ライセンス検証結果** ] 領域にエラーがレポートされます。# はライセンス・コードの末尾を示すため、# 文字の後の文字列はすべてライセンス検証ユーティリティによって無視されます。
  - ▶ 環境変数で lservrc ファイルのパスを見つけるには、[ **マイコンピュータ** ] を右クリックして [ **プロパティ** ] を選択します。[ システムのプロパティ ] ダイアログ・ボックスで [ **詳細設定** ] タブを選択して、[ **環境変数** ] をクリックします。LSERVRC 変数の [ 環境変数 ] ウィンドウの [ <ユーザー>のユーザー環境変数 ] ボックスにパスが表示されます  
(例: C:\Program Files\Common Files\HP\License Manager\lservrc )
- 

**3 [ 検証 ] をクリックします。ライセンス文字列がデコードされます。**

ライセンス情報が [ **ライセンス情報** ] 領域に表示されます。詳細については、「ライセンス情報」(98ページ)を参照してください。

検証の結果は、[ **ライセンス検証結果** ] 領域に表示されます。詳細については、「検証のチェック」(99ページ)を参照してください。

**4 必要に応じて、[ コピー ] をクリックして情報をクリップボードにコピーします。コピーされた情報には、現在のコンピュータのロッキング・コード、デコードされたライセンス文字列、デコードと検証の結果が含まれています。詳細については、「クリップボードへのライセンス検証結果のコピー」(99ページ)を参照してください。****5 [ 閉じる ] をクリックしてユーティリティを終了します。**

## ライセンス情報

デコード処理の結果には、ライセンスに関する次の情報が含まれています。

---

注：この操作で提供される情報の一部は、HP ソフトウェア・サポートのみを対象としているため、ここでは説明しません。

---

- ▶ **機能名**：ライセンスの作成時に指定された QuickTest の機能名。
- ▶ **機能のバージョン**：ライセンスの作成時に指定されたライセンスのバージョン。これは QuickTest Professional のバージョン番号ではありません。
- ▶ **シートまたはコンカレント**：ライセンスの種類。「シート」ライセンスまたは「コンカレント」ライセンスのいずれかになります。シート・ライセンスはインストール先のコンピュータに固有のライセンスです。コンカレント・ライセンスはコンカレント・ライセンス・サーバから参照されるもので、複数の QuickTest ユーザが使用できます。
- ▶ **試用または通常**：ライセンスの種類。「試用」ライセンスまたは「通常」ライセンスのいずれかになります。試用ライセンスは、使用期間が制限されているデモ版のライセンスです。
- ▶ **試用日数**：試用ライセンスにのみ適用されます。試用期間終了までの日数が指定されます。日数は、QuickTest のコア・コンポーネントがインストールされた日付から起算されます。
- ▶ **ロッキング・コード**：ライセンスの作成時に指定されたロッキング・コード。このコードにより、QuickTest がインストールされているコンピュータが一意に識別されます。
- ▶ **クロック不正変更**：QuickTest がインストールされているコンピュータで不正に日付が変更された形跡があるかないかに基づいて、ライセンス発行の可否を示します。
- ▶ **コミュータ・ライセンス**：コミュータ・ライセンスがサポートされているかどうかを示します。コミュータ・ライセンスを利用すると、QuickTest のコンカレント・ライセンス・サーバに接続していないときでも QuickTest Professional を使用できるようになります。コミュータ・ライセンスは、コンカレント・ライセンスと組み合わせた場合にのみ使用できます。詳細については、「コミュータ・ライセンスの使用」(82 ページ)を参照してください。

## 検証のチェック

ライセンス検証ユーティリティでは、次の検証チェックが実行されます。

- 1 QuickTest 機能名は既存の機能と一致するか。
- 2 ライセンスのバージョンは既存のバージョンのいずれかと一致するか。
- 3 ロッキング・コードは、QuickTest がインストールされているコンピュータのロッキング・コードと一致するか。
- 4 ライセンス文字列で指定されている試用期間は終了していないか。
- 5 ライセンスがコンカレント・ライセンスの場合に、コンピュータ・ライセンスがサポートされているかどうか。

## クリップボードへのライセンス検証結果のコピー

場合によっては、このユーティリティで提供される情報が必要になることがあります。たとえば、HP ソフトウェア・サポートにこの情報を転送しなければならないことがあります。

検証処理が完了したら、[ **コピー** ] ボタンをクリックして情報をクリップボードにコピーし、必要に応じてその情報を貼り付けます。

## コンカレント・ライセンスに関する問題のトラブルシューティング

特定の状況では、QuickTest Professional をライセンス・サーバに接続できず、ライセンス・エラー・メッセージが開きます。

次のうちの1つまたは複数がエラーの原因となっているかどうか確認します。

- ▶ 「サーバとクライアント・コンピュータがネットワーク接続されていない」(100ページ)
- ▶ 「ライセンス・サーバが実行されていない」(101ページ)
- ▶ 「ライセンスがライセンス・サーバにインストールされていない」(101ページ)
- ▶ 「ライセンス・キー・ファイル (lservrc) がサーバに見つからない」(102ページ)
- ▶ 「ライセンス・サーバが、最大数のユーザによって使用されている」(102ページ)
- ▶ 「複数のバージョンのライセンス・サーバが実行されている」(103ページ)
- ▶ 「クライアント・コンピュータがシート・ライセンスを使用するよう設定されている」(103ページ)
- ▶ 「ライセンス・キーがライセンス・サーバのロッキング・コードと一致しない」(103ページ)
- ▶ 「クライアント・コンピュータがサーバ・コンピュータのライセンス・キーを特定できない」(104ページ)
- ▶ 「LSHOST 変数または LSFORCEHOST 変数が設定されていない」(105ページ)
- ▶ 「LSERVRC システム変数がクライアント・コンピュータに設定されている」(105ページ)
- ▶ 「クライアント・コンピュータがVPN ソフトウェア経由で接続されている」(105ページ)

### サーバとクライアント・コンピュータがネットワーク接続されていない

クライアントとサーバ・マシン間のネットワーク接続は、コマンド・プロンプト・ウィンドウでライセンス・サーバ・マシンに ping を実行することによって確認できます。

次に例を示します。c:¥ping <ライセンス・サーバ名>

ping コマンドから応答がない、または応答がタイムアウトになる場合は、ネットワークに問題がある可能性があります。必要に応じて、コンピュータ管理者またはネットワーク管理者に問い合わせてください。

## ライセンス・サーバが実行されていない

ライセンス・サーバ・サービスを起動または再起動する必要があります。

ライセンス・サーバ・サービスを起動または再起動するには、次の手順で行います。

- 1 コントロール・パネルを開きます([ **スタート** ] > [ **設定** ] > [ **コントロール パネル** ])。
- 2 [ **サービス** ] を選択します。

---

**注：**Windows 2000 など、オペレーティング・システムによっては、サービス・ユーティリティはコントロール・パネルの [ **管理ツール** ] セクションにあります。

---

3 **SentinelLM** サービスを選択します。

- 4 [ **サービスの開始** ](または [ **サービスの再起動** ]) をクリックするか、右クリックして表示されるメニューから [ **開始** ](または [ **再起動** ]) を選択します。

## ライセンスがライセンス・サーバにインストールされていない

WlmAdmin ユーティリティを使用して、ライセンスがライセンス・サーバにインストールされていることを確認します。WlmAdmin ユーティリティの詳細については、『HP Functional Testing Concurrent License Server インストール・ガイド』の「**ユーティリティ**」の章を参照してください。

ライセンス・サーバでライセンスを検査するには、次の手順で行います。

- 1 QuickTest Professional インストール DVD の **LicenseServer\utils** フォルダにある **SrvUtils.exe** を実行します。
- 2 **WlmAdmin** を選択します。
- 3 ライセンス・サーバの名前を定義したサーバとして入力します。
- 4 ライセンス・サーバの分岐を展開してみます。

ライセンス・キー情報が表示されなければ、インストールしたライセンスが無効であるか、ライセンス・キー・ファイル ( lservrc ) が見つかりません。ライセンス・キー情報が表示されれば、インストールしたライセンスは有効です。ライセンスがすべて使用中であるかどうかは、ライセンスを選択して、WlmAdmin ユーティリティの [ **Statistics** ] 表示枠を調べることで確認できます。

## ライセンス・キー・ファイル ( lservrc ) がサーバに見つからない

lservrc ファイルは次のディレクトリになければなりません。

< **ドライブ** > ¥ **Program Files** ¥ **Common Files** ¥ **SafeNet Sentinel** ¥ **Sentinel RMS License Manager** ¥ **WinNT**

ファイルがこの場所になければ、ライセンス・サーバはライセンスを見つけることができません。ライセンス・サーバ・コンピュータでファイルを検索します。ファイルが見つかった場合は、正しいディレクトリに移動して、SentinelLM サービスを再起動します。ファイルが見つからない場合は、ライセンスがインストールされていません。

## ライセンス・サーバが、最大数のユーザによって使用されている

- ▶ すべてのライセンスが使用中である場合、License Server Manager はライセンスがリリースされるまで別のライセンスを発行することができません。WlmAdmin ユーティリティを使用して、現在ライセンスを使用しているユーザを特定できます。QuickTest Professional インストール DVD の **LicenseServer** ¥ **utils** フォルダにある **SrvUtils.exe** を実行し、[ **WlmAdmin** ] を選択します。

WlmAdmin ユーティリティの詳細については、『HP Functional Testing Concurrent License Server インストール・ガイド』の「**ユーティリティ**」の章を参照してください。

- ▶ QuickTest が予期せずに関じ、ライセンスを自動的にリリースしない場合があります。このような場合は、ライセンスのタイムアウトを待機するか、ライセンス・サーバを再起動します。

詳細については、HP Software セルフ・ソルブ・ナレッジベース

( <http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/document> ) を参照してください ( ナレッジ・ベースを使用するには、HP パスポート・ユーザとして登録し、サイン・インする必要があります )。ナレッジ・ベースで、次を検索します。

**文書 ID 18428** : "What happens if AQT/QTP crashes on a client machine while using a Floating license"

## 複数のバージョンのライセンス・サーバが実行されている

ライセンス・サーバは、1 台のコンピュータに 1 つのバージョンだけがインストールされて実行されていなければなりません。複数のバージョンがある場合は、[ プログラムの追加と削除 ] を使用して、すべてのライセンス・サーバのインスタンスをアンインストールします。次にライセンス・サーバ・ソフトウェアの最新バージョンをインストールし、ライセンス・コード・キーを再インストールします。

## クライアント・コンピュータがシート・ライセンスを使用するように設定されている

コンカレント・ライセンスまたはシート・ライセンスの設定を確認して変更する方法の詳細については、「ライセンス情報の変更」( 80 ページ ) を参照してください。

## ライセンス・キーがライセンス・サーバのロッキング・コードと一致しない

Isdecode.exe ユーティリティを使用して、ライセンス・キーのロッキング・コードを確認します。

ライセンス・キーのロッキング・コードを確認するには、次の手順で行います。

- 1 Isdecode.exe ユーティリティを QuickTest Professional インストール DVD の LicenseServer\utils フォルダから lservrc ファイルの場所 ( < **ドライブ** > \Program Files\Common Files\SafeNet Sentinel\Sentinel RMS License Manager\WinNT ) にコピーします。
- 2 Isdecode.exe ユーティリティを実行します。コマンド・プロンプト・ウィンドウがデコードされたキー情報と共に開きます。  
ライセンス・キーのロッキング・コードが **Server locking code** 行に表示されます。
- 3 QuickTest Professional インストール DVD の LicenseServer\KeyInstallation フォルダで inst\_key.exe ユーティリティを実行します。  
ライセンス・サーバ・コンピュータのロッキング・コードが「Welcome」画面に表示されます。

---

**注:** この手順はライセンス・サーバ・コンピュータで行います。ライセンス・サーバ・コンピュータにリモートからアクセスすると、無効なライセンス・コードが生成されます。

---

- 4 ライセンス・キーのロックング・コードとサーバ・コンピュータのロックング・コードを比較します。

ロックング・コードが一致しなければ、ロックング・コードが変更されている原因を特定する必要があります。オペレーティング・システムの再インストール、コンピュータ名の変更、動的 IP アドレスの使用、ロックング・コードのターミナル・セッションからの取得、あるいはライセンス・キーのターミナル・セッションからのインストールなどによって、ロックング・コードが変わることがあり、ライセンス・キーが無効になります。

ロックング・コードが変更された原因を特定したら、License Request を送信して新しいライセンス・キーを生成できます。

### クライアント・コンピュータがサーバ・コンピュータのライセンス・キーを特定できない

WlmAdmin ユーティリティを使用して、クライアント・コンピュータのライセンスを確認します。WlmAdmin ユーティリティの詳細については、『HP Functional Testing Concurrent License Server インストール・ガイド』の「ユーティリティ」の章を参照してください。

クライアント・コンピュータでライセンスを検査するには、次の手順で行います。

- 1 QuickTest Professional インストール DVD の `LicenseServer\utils` フォルダにある `SrvUtils.exe` を実行します。
- 2 **WlmAdmin** を選択します。
- 3 ライセンス・サーバの名前を定義したサーバとして入力します。
- 4 ライセンス・サーバの分岐を展開してみます。

ライセンス・キーを特定できない場合は、UDP Port 5093 がクライアントとサーバ間でブロックされているか、サポートされていない NAT ( Network Address Translation ) をライセンス・サーバの IP アドレスが使用しています。必要に応じて、コンピュータ管理者またはネットワーク管理者に問い合わせてください。



詳細については、HP Software セルフ・ソルブ・ナレッジベース (<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/document>) を参照してください(ナレッジ・ベースを使用するには、HP Passport ユーザとして登録し、サイン・インする必要があります)。ナレッジ・ベースで、次を検索します。

- ▶ **文書 ID 18402** : "What is port 5093 in the license mechanism used for?"
- ▶ **文書 ID 41449** : "Does UDP port 5093 need to be bi-directional?"
- ▶ **文書 ID 18424** : "How to set up the License Manager for machines running on different subnets"

### LSHOST 変数または LSFORCEHOST 変数が設定されていない

これらの変数の設定方法の詳細については、『HP Functional Testing Concurrent License Server インストール・ガイド』を参照してください。

### LSERVRC システム変数がクライアント・コンピュータに設定されている

LSERVRC 変数はシート・ライセンス用に使用されますが、QuickTest のインストール時にデモ・ライセンス用に作成されている場合があります。この変数がある場合は、ライセンス・サーバの場所を見つける際の妨げにならないように削除しなければなりません。

LSERVRC システム変数を削除するには、次の手順で行います。

- 1 デスクトップで[ **マイ コンピュータ** ]を右クリックして、[ **プロパティ** ]を選択します。
- 2 [ **詳細設定** ] タブを選択し、[ **環境変数** ] をクリックします。
- 3 [ **システム変数** ] リストに LSERVRC 変数がないか確認します。存在する場合は [ **削除** ] をクリックします。
- 4 [ **OK** ] をクリックしてウィンドウを閉じます。
- 5 クライアント・コンピュータを再起動して、変更を実装します。

### クライアント・コンピュータが VPN ソフトウェア経由で接続されている

クライアント・コンピュータが VPN ソフトウェア経由で接続されている場合は、VPN が [ **IPSec over UDP** ] を使用するよう設定されていないことを確認します。設定されていると、サポートされない NAT ( Network Address Translation ) を使用するようネットワークが構成されます。



# 第4章

---

## QuickTest Professional の保守とアンインストール

QuickTest Professional では、個々の機能をインストールおよびアンインストールできます。QuickTest Professional のソフトウェアとファイルをアンインストールすることも可能です。破損した QuickTest Professional のインストールを修復することもできます。

---

**注：**場合によって、QuickTest をインストールした後やインストール後に変更を加えた後に、コンピュータの再起動を求められることがあります。再起動を求められた場合は、できるだけ速やかにコンピュータを再起動することをお勧めします。システムの再起動を先延ばしにすると、QuickTest に予期しない動きが生じる可能性があります。

---

### 本章の内容

- ▶ QuickTest Professional の特定機能のインストールとアンインストール (108 ページ)
- ▶ QuickTest Professional のインストールの修復 (110 ページ)
- ▶ QuickTest Professional のアンインストール (111 ページ)
- ▶ QuickTest の設定の保存と復元 (113 ページ)
- ▶ QuickTest のアンインストールに関するトラブルシューティングと 制限事項 (117 ページ)

## QuickTest Professional の特定機能のインストールとアンインストール

QuickTest Professional の DVD を使用して、特定の QuickTest Professional の機能をインストールまたはアンインストールできます。たとえば、QuickTest Professional とともに提供されるアドインやサンプル・アプリケーションをインストールあるいはアンインストールできます。

---

**注：**また、QuickTest Professional の個別の機能をインストールまたはアンインストールすることもできます。これを行うには、[ **スタート** ] > [ **設定** ] > [ **コントロール パネル** ] > [ **アプリケーションの追加と削除** ] を選択し、QuickTest Professional に対応する [ **変更** ] ボタンをクリックします。

---

機能をインストールまたはアンインストールする手順は、カスタム・インストールの実行手順と似ています。次の手順で説明する画面の詳細については、「QuickTest Professional のインストール」(22 ページ) を参照してください。

---

**注：**QuickTest Professional の機能のアンインストールをする前に、50 MB 以上のハードディスクの空き容量があることを確認してください。

---

**QuickTest Professional の機能をインストールまたはアンインストールするには、次の手順で行います。**

- 1 DVD ドライブに QuickTest Professional の DVD を挿入します。DVD を挿入した DVD ドライブがローカル・コンピュータのドライブである場合 [ QuickTest Professional セットアップ ] ウィンドウが開きます。

ネットワーク・ドライブからインストールする場合は、DVD のルート・フォルダにある **setup.exe** をダブルクリックします。[ QuickTest Professional セットアップ ] ウィンドウが開きます。

---

**注：**最初のインストールで使ったものと同じ QuickTest Professional のバージョンを使用しなければなりません。

---

- 2 [ **QuickTest Professional のセットアップ** ]をクリックします。[ HP QuickTest Professional セットアップウィザードへようこそ ]が開きます。[ **次へ** ]をクリックして続行します。
- 3 [ **メンテナンスの種類** ]画面が開きます。[ **変更** ]を選択し、[ **次へ** ]をクリックします。
- 4 [ **カスタム セットアップ** ]画面で、アイコンをクリックしてメニューを表示し、機能をコンピュータにインストールする方法を選択します。機能に応じて次のオプションを選択できます。



- ▶ [ **ローカル ハード ドライブにインストールします。** ] 選択した機能をローカル・ハード・ディスク・ドライブにインストールします。



- ▶ [ **機能全体をローカル ハード ドライブにインストールします。** ] 選択した機能全体をローカル・ハード・ディスク・ドライブにインストールします。



- ▶ [ **機能全体をインストールしません。** ] 機能をインストールから除外し、QuickTest で使用できないようにします。

リスト内の項目を選択すると、機能の説明や、機能に必要なドライブの容量、または、機能をアンインストールした場合に解放される容量を表示できます。

[ **次へ** ] をクリックして続行します。

- 5 [ **インストールの確認** ]画面で [ **次へ** ] をクリックします。[ HP QuickTest Professional のインストール ]画面に、アプリケーションの変更の進捗状況が表示されます。
- 6 [ **インストールの完了** ]画面が開きます。[ **完了** ] をクリックします。

---

**注:** QuickTest で使用するために前提条件のソフトウェアのある機能をインストールした場合は、機能のインストール後に [ **インストールの追加要件** ] ダイアログ・ボックスが表示されます。詳細については、「インストールの追加要件ユーティリティの使用」(35ページ)を参照してください。

---

## QuickTest Professional のインストールの修復

QuickTest Professional の DVD を使用して、前回の QuickTest Professional のインストールで欠落または損傷したファイルを置き換えることによって、既存の QuickTest Professional のインストールを修復できます。

---

**注：**また、既存の QuickTest Professional のインストールを修復することもできます。これを行うには、[ **スタート** ] > [ **設定** ] > [ **コントロール パネル** ] > [ **アプリケーションの追加と削除** ]を選択し、QuickTest Professional に対応する[ **変更** ]ボタンをクリックします。

---

**QuickTest Professional のインストールを修復するには、次の手順で行います。**

- 1 DVD ドライブに QuickTest Professional の DVD を挿入します。DVD を挿入した DVD ドライブがローカル・コンピュータのドライブである場合 [ QuickTest Professional セットアップ ] ウィンドウが開きます。

ネットワーク・ドライブからインストールする場合は、DVD のルート・フォルダにある **setup.exe** をダブルクリックします。[ QuickTest Professional セットアップ ] ウィンドウが開きます。

---

**注：**最初のインストールで使ったものと同じ QuickTest Professional のバージョンを使用しなければなりません。

---

- 2 [ **QuickTest Professional のセットアップ** ] をクリックします。  
[ HP QuickTest Professional セットアップウィザードへようこそ ] が開きます。
- 3 [ **次へ** ] をクリックして続行します。[ **メンテナンスの種類** ] 画面が開きます。
- 4 [ **修復** ] を選択し、[ **次へ** ] をクリックします。次に [ **修復の確認** ] 画面で [ **次へ** ] をクリックします。[ **セットアップ ステータス** ] 画面に、修復プロセスの進行状況が表示されます。

---

**注：**修復プロセスの開始には多少時間がかかることがあります。その間、ウィザードが応答しなくなることがあります。最終的に [ Run Setup ] 画面が開き、修復プロセスが続けられます。

---

5 [ インストールの完了 ] 画面で [ 完了 ] をクリックします。

## QuickTest Professional のアンインストール

Windows コントロール・パネルの [ **アプリケーションの追加と削除** ] オプション、または QuickTest Professional の DVD を使用して、QuickTest Professional をアンインストールできます。

QuickTest Professional をアンインストールする前に、既存のカスタマイズ設定やレジストリ・キーを保存しておき、必要に応じて、新しいバージョンのインストール後にそれらを復元できます。詳細については、「QuickTest の設定の保存と復元」(113 ページ)を参照してください。

QuickTest をアンインストールする前に、50 MB 以上のハードディスクの空き容量があることを確認してください。

---

### 注：

- ▶ 「QuickTest Professional の特定機能のインストールとアンインストール」(108 ページ)で説明するように、QuickTest Professional の個別の機能をアンインストールできます。
  - ▶ Windows のコントロール・パネルの [ **プログラムの追加と削除** ] オプションを使って、QuickTest Professional の個々の Hotfix (パッチ) をアンインストールできます。
-

Windows コントロール・パネルの [ アプリケーションの追加と削除 ] オプションを使用して QuickTest Professional をアンインストールするには、次の手順で行います。

- 1 [ スタート ] > [ 設定 ] > [ コントロール パネル ] > [ アプリケーションの追加と削除 ] を選択します。現在インストールされているプログラムのリストが開きます。
- 2 [ QuickTest Professional ] をクリックし [ 削除 ] をクリックします。QuickTest Professional をアンインストールすることを確認するメッセージが表示されます。[ はい ] をクリックし、画面の指示に従って QuickTest Professional をアンインストールします。QuickTest Professional をアンインストールせずにコンピュータにインストールしたままにしておくには、[ いいえ ] をクリックします。  
アンインストール・プログラムによって、コンピュータからすべての QuickTest Professional の ( すべての QuickTest Professional アドインを含む ) 機能が削除されます。

QuickTest Professional の DVD を使用して QuickTest Professional をアンインストールするには、次の手順で行います。

- 1 DVD ドライブに QuickTest Professional の DVD を挿入します。DVD を挿入した DVD ドライブがローカル・コンピュータのドライブである場合 [ QuickTest Professional セットアップ ] ウィンドウが開きます。  
ネットワーク・ドライブからインストールする場合は、DVD のルート・フォルダにある **setup.exe** をダブルクリックします。[ QuickTest Professional セットアップ ] ウィンドウが開きます。

---

**注：**最初のインストールで使ったものと同じ QuickTest Professional のバージョンを使用しなければなりません。

---

- 2 [ QuickTest Professional のセットアップ ] をクリックします。  
[ HP QuickTest Professional セットアップウィザードへようこそ ] が開きます。
- 3 [ 次へ ] をクリックします。[ メンテナンスの種類 ] 画面が開きます。
- 4 [ 削除 ] を選択し、[ 次へ ] をクリックします。[ アンインストールの確認 ] 画面で [ 次へ ] をクリックします。  
アンインストール・プログラムにより、コンピュータからすべての QuickTest Professional の ( すべての QuickTest Professional アドインを含む ) 機能が削除されます。
- 5 [ 削除の完了 ] 画面で [ 完了 ] をクリックします。



---

**注：** QuickTest Professional のアンインストールでは、Microsoft Script Debugger や Microsoft NET Framework など、QuickTest Professional のインストールの一環としてインストールした HP 以外のアプリケーションはアンインストールされません。これらのアプリケーションは、[ **コントロール パネル** ] の [ **プログラムの追加と削除** ] ダイアログ・ボックスからアンインストールできます。

---

## QuickTest の設定の保存と復元

QuickTest Professional 9.2 以前のバージョンからアップグレードする場合は、その前に以前のバージョンの QuickTest Professional をアンインストールする必要があります。設定の保存と復元ユーティリティを使用すると、古いバージョンの QuickTest をアンインストールする前に、既存のカスタマイズ設定、レジストリ・キー、およびテストを保存し、新しいバージョンをインストールした後でそれらを復元できます。

設定の保存と復元ユーティリティは、Web イベントのレコード設定用の .xml ファイルに手動で加えたカスタマイズを保存する場合に特に便利です。

設定の保存と復元ユーティリティによって保存されるファイルおよび設定の一覧については、「保存されるファイルおよび設定」(115ページ)を参照してください。

設定の保存と復元ユーティリティでは、テスト・フォルダがバックアップされません。アンインストール処理により、QuickTest テストは削除されませんが、アンインストールの前にテスト・フォルダのバックアップ・コピーを作成できます。

既存の設定を保存するには、次の手順を実行します。

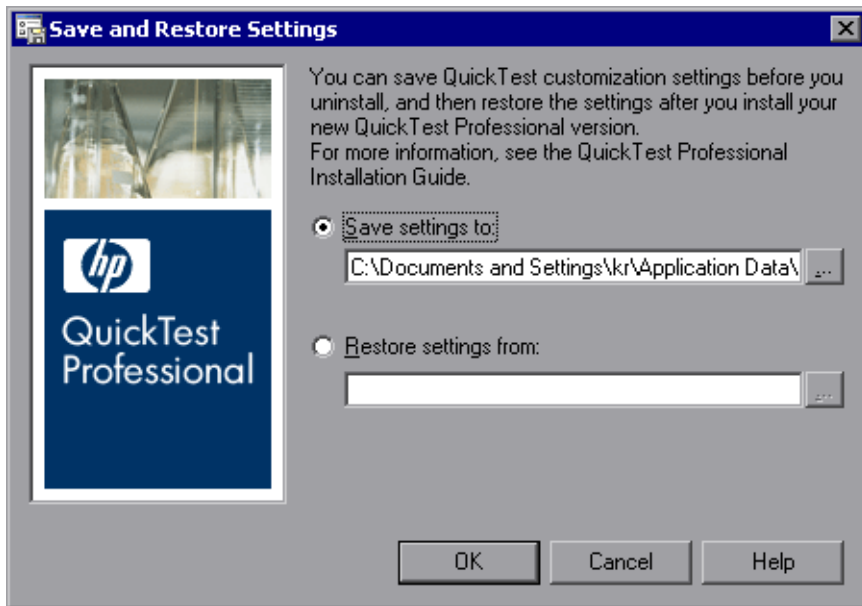
- 1 以前のバージョンの QuickTest をアンインストールする前に、QuickTest のインストール用 DVD のルートにある **SaveRestoreSettings.exe** ファイルを実行します。

---

注：QuickTest Professional のインストール後は、[ **スタート** ] > [ **プログラム** ] > [ **HP QuickTest Professional** ] > [ **Tools** ] > [ **Save and Restore Settings** ] から設定の保存と復元ユーティリティを使用することもできます。

---

[ 設定の保存と復元 ] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 2 [ **Save settings to** ] ラジオ・ボタン・オプションを選択し、QuickTest Professional の既存のカスタマイズ設定、レジストリ・キー、およびテストを保存する **.zip** ファイルの場所と名前を入力します。
- 3 [ **OK** ] をクリックして設定を保存します。

保存した設定を復元するには、次の手順を実行します。

- 1 QuickTest Professional のインストール後は、[ **スタート** ] > [ **プログラム** ] > [ **HP QuickTest Professional** ] > [ **Tools** ] > [ **Save and Restore Settings** ] を選択します。[ 設定の保存と復元 ] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 [ **Restore settings from** ] ラジオ・ボタン・オプションを選択し、QuickTest Professional の既存のカスタマイズ設定、レジストリ・キーが保存されている **.zip** ファイルの場所と名前を入力します。
- 3 [ **OK** ] をクリックして設定を復元します。

### 保存されるファイルおよび設定

設定の保存と復元ユーティリティでは、QuickTest Professional のインストール・フォルダ内の **bin** および **dat** フォルダにある特定のファイルと、QuickTest の特定のレジストリ・キーが保存されます。

#### bin フォルダのファイル

<QuickTest Professional のインストール・フォルダ>%bin フォルダにある次のファイルが、設定の保存と復元ユーティリティによって保存されます。

- ▶ **Mic.ini**
- ▶ **Qtreport.ini**

#### dat フォルダのファイル

<QuickTest Professional のインストール・フォルダ>%dat フォルダの次のファイルが、もしあれば（インストールされるアドインによって異なります）設定の保存と復元ユーティリティによって保存されます。

関連するアドイン	ファイル名
Siebel	SiebelConfiguration.xml*
Siebel	SiebelEventConfiguration.xml*
Siebel	SiebelExceptionConfig.xml*
Siebel	SiebelPatterns.xml*
Siebel	CASConfiguration.xml*
Siebel	CASEventConfiguration.xml*
SAP	PropertyPatternConfigSAP.xml*

関連するアドイン	ファイル名
SAP	SAPConfiguration.xml*
SAP	SAPLearnFilter.xml*
SAP	SapEventConfiguration.xml*
PeopleSoft	PSConfiguration.xml*
PeopleSoft	PSEventConfiguration.xml*
PeopleSoft	PSLearnFilter.xml*
.NET	SwfConfig.xml
.NET	WebFormsConfiguration.xml*
.NET	WebFormsEventConfiguration.xml*
.NET	WebFormsLearnFilter.xml*

---

**注：**アスタリスクの印が付いているファイルは，ユーザによって変更が加えられている場合にのみコピーされます。変更が加えられていなければコピーされません。

---

### レジストリ・キー

次のレジストリ・キーが設定の保存と復元ユーティリティによって保存されます。

HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Mercury Interactive\QuickTest Professional\MicTest\Packages\TEAPackage

## QuickTest のアンインストールに関するトラブルシューティングと制限事項

本項では、QuickTest Professional のアンインストールに関するトラブルシューティングと制限事項について説明します。

- ▶ QuickTest Professional がインストールされているのと同じコンピュータに Quality Center クライアントがインストールされている場合、QuickTest Professional をアンインストールすると、ムービー（FBR）ファイルの関連付けが削除されることがあります。そのため、HP Micro Player を使って、Quality Center で管理されている不具合に関するムービーを表示できないことがあります。

**回避策:** 次を実行して、ムービー・ファイルに HP Micro Player を関連付けし直します。

- a [ **スタート** ] > [ **プログラム** ] > [ **QuickTest Professional** ] > [ **Tools** ] > [ **HP Micro Player** ] を選択して、HP Micro Player を開きます。
- b [ **ファイル** ] > [ **オプション** ] を選択し、HP Micro Player の [ **オプション** ] ダイアログ・ボックスを開きます。次に、ファイルを HP Micro Player に直接関連付けるために、[ **このプレーヤに FBR ファイルを関連付ける** ] チェック・ボックスを選択します。

